

【参考書】	1.助産業務ガイドライン 2024/日本助産師会/助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会/日本助産師会出版 /ISBN:9784905023395 2.産婦人科診療ガイドライン産科編 2026/日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会(編)/日本産科婦人科学 会・日本産婦人科医会/		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

関連規程

(趣旨)

第 1 条 静岡県立大学大学院看護学研究科（以下「研究科」という。）に関する事項については、静岡県立大学大学院学則（以下「学則」という。）及び静岡県立大学学位規程に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

- 2 保健師助産師看護師法（昭和 23 年法律第 203 号）及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則（昭和 26 年文部・厚生省令第 1 号）に係る事項については、この規程の定めるところによる。

(課程及び専攻)

第 2 条 研究科の課程は、博士課程とする。

- 2 博士課程は、これを前期 2 年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期 3 年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分する。
- 3 研究科に、看護学専攻を置く。
- 4 助産師養成選択科目は、助産師学校として文部科学大臣の指定を受けるものとする。
- 5 助産師養成選択科目を履修できる者は、保健師助産師看護師法第 21 条各号のいずれかに該当する者とする。

(教育方法)

第 3 条 博士前期課程の教育は、授業科目の授業及び修士論文等の作成に対する指導によって行うものとする。

- 2 博士後期課程の教育は、授業科目の授業、研究及び博士論文の作成に対する指導によって行うものとする。

(研究指導)

第 4 条 研究科において、教育研究上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、本研究科の学生が他大学の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

- 2 前項の規程により受けた研究指導は、研究科委員会において審査の上、研究科において受けた研究指導とみなすことができる。

(授業科目及び単位数)

第 5 条 授業科目及び単位数は、大学院学則の別表（一）看護学研究科（博士前期課程）及び大学院学則の別表（二）看護学研究科（博士後期課程）のとおりとする。

(助産師国家試験受験資格)

第 5 条の 2 助産師国家試験受験資格を得ようとする者は、大学院学則の別表（一）看護学研究科（博士前期課程）の定めるところに従って、第 12 条に規定する博士前期課程修了要件に加えて、所定の単位を修得しなければならない。

(単位の計算方法)

第 6 条 授業科目の単位数は、1 単位の履修時間を教室及び教室外を合せて 45 時間とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義は、15 時間をもって 1 単位とする。
- (2) 演習は、15 時間をもって 1 単位とする。
- (3) 実験又は実習は、30 時間をもって 1 単位とする。

- (4) 助産師養成選択科目のうち、演習は30時間（ただし、助産診断学演習Ⅰ及びⅡについては15時間）をもって1単位とし、実習は45時間（ただし、周産期助産学実習については30時間）をもって1単位とする。

（指導教員）

第7条 学生の履修及び研究等を指導するために、研究科長は研究科委員会の議に基づき、学生ごとに指導教員を定める。

2 博士前期課程においては、指導教員及び副指導教員は、研究科担当の教授及び准教授とする。ただし、必要があるときは、研究科委員会の議をもって認めることができる。

3 博士後期課程においては、指導教員及び副指導教員は、研究科担当の教授及び准教授の内、博士論文に関する研究指導を担える者とする。

（授業科目の履修）

第8条 学生は、授業科目の履修にあたっては、授業担当教員の承認を受けた上で、指定する期日までに所定の様式により申告しなければならない。

（単位修得の認定）

第9条 授業科目の単位修得の認定は、口答又は筆答の試験若しくは研究報告の審査により、授業担当教員が行う。

2 前項に規定する単位修得の認定は、各授業科目の授業の終了する学期末に行う。ただし、特別の事情があるときは、その期日を変更することができる。

（成績の評価）

第10条 授業科目の成績は、優、良、可及び不可の4段階に評価し、可以上を合格とする。

（単位修得の証明）

第11条 研究科長は、単位を修得した学生が願い出た場合には、単位修得証明書を交付するものとする。

（博士前期課程の修了要件）

第12条 博士前期課程の修了の要件は、在学期間中に大学院学則の別表(一)看護学研究科(博士前期課程)の定めるところに従って所定の単位以上取得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査及び試験に合格することとする。

2 前項の修士論文等の審査については、博士前期課程の目的に応じて適当と認めるときは、特定の研究課題についての研究成果を持って代えることができる。

（博士後期課程の修了要件）

第13条 博士後期課程の修了の要件は、博士後期課程に3年以上在籍し、在学期間中に大学院学則の別表(二)看護学研究科(博士後期課程)の定めるところに従って所定の単位以上取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。

2 前項に基づく認定以外、特例による博士の学位の認定は一切行わない。

（学位論文の提出）

第14条 博士前期課程及び博士後期課程の学位論文は、指導教員の承認を得て、研究科委員会の定める期日までに提出しなければならない。

（学位論文の審査及び最終試験）

第15条 学位論文の審査及び最終試験は、研究科委員会において選出された論文審査員が行う。

2 最終試験は、審査した学位論文を中心として、これに関連する授業科目及び外国語科目について

口答又は筆答により行う。

- 3 前二項において、必要に応じ審査員以外の学部教員の意見を求めることができる。
- 4 学位論文及び最終試験についての合格又は不合格の認定は、研究科委員会が論文審査員の報告に基づいて行う。

(学位の授与)

第16条 博士前期課程の修了者には、静岡県立大学学位規程の定めるところにより、修士(看護学)の学位を授与する。

- 2 博士後期課程の修了者には、静岡県立大学学位規程の定めるところにより、博士(看護学)の学位を授与する。

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、研究科に関し必要な事項は、研究科委員会が定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第5条の2並びに別表1及び2の規定は、平成24年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、平成28年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規定は、平成31年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は、令和2年4月1日以降入学する者について適用し、同年3月31日において現に在学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条第2項、第3条第1項、第5条、第5条の2、第7条第2項、第12条第1項、及び第2項、第14条、第16条第1項の各規定は、令和2年4月1日以降に入学する者について適用し、同年3月31日において現在在学する者については、なお従前の例による。

静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則

(趣旨)

第1条 この細則は、静岡県立大学大学院学則、静岡県立大学学位規程及び静岡県立大学大学院看護学研究科規程に定めるもののほか、静岡県立大学大学院看護学研究科における修士学位審査に関し必要な事項を定める。

(指導教員)

第2条 博士前期課程の研究指導は、原則として指導教員1名と副指導教員1名の計2名で行う。

2 学生は、入学時に指導教員を、1年次9月までに副指導教員を検討し、看護学研究科長（以下、研究科長）に副指導教員を申請する（様式修第1号）。看護学研究科委員会（以下、研究科委員会という。）の議を経て決定し、変更は原則として認めない。指導教員・副指導教員の退職等やむをえない事情がある場合は、研究科委員会の議を経て指導教員及び副指導教員、専門分野の変更ができる（様式修第2号・様式修第3号）。

3 指導教員は、学生の研究計画立案より、データ収集の計画と実施、解析と分析、考察を含め論文完成に至るまで、研究全体に対して指導する。

4 副指導教員は、学生の研究計画立案、データ収集の計画と実施、解析と分析、考察に至るまで、副指導教員の研究領域の観点から、類似した領域または異なる領域の知見を踏まえて助言を与え、学生の研究の独自性と専門性を高めるとともに、新たな知見が近接または異なる研究領域にも参考となるように指導教員の指導を補助する。

(修士論文研究計画審査の申請)

第3条 修士論文研究計画書（以下「研究計画書」という）の審査を申請する学生は、以下の書類を研究科長に提出する。

- | | |
|-----------------------|----|
| (1) 研究計画審査申請書（様式修第4号） | 1部 |
| (2) 研究計画書 | 4部 |

2 第1項の書類の提出期間は、年度当初に示す修士論文スケジュールに準ずる。

3 提出された書類の差し替えは認められない。

4 研究科長は研究計画書の審査にあたり、第1項(1)、(2)以外の資料の提出を求めることができる。

(研究計画書の審査)

第4条 研究計画書の審査は、看護学研究科の教授または准教授による主査1名と副査2名が担当する。

2 主査は指導教員とし、副査は指導教員が指名する2名で構成され、研究科委員会において承認された者とする。

3 研究計画書の審査はすみやかに行い、主査は修士論文研究計画審査結果報告書（様式修第5号）により研究会委員会において報告する。

4 研究計画書の審査基準については別に定める（別表）。

(研究計画書の合否判定)

第5条 研究科長は、研究科委員会で研究計画書の合否判定をおこなう。

2 研究科長は、合否判定結果を学生に速やかに通知する。

(修士論文研究計画の研究倫理審査の受審)

第6条 学生は、合格の判定を受けた研究計画書について、静岡県立大学看護学部研究倫理審査委員会もしくは研究実施施設の研究倫理審査委員会において研究倫理審査を受審する。

2 看護学部研究倫理審査委員会もしくは研究実施施設の研究倫理審査委員会の承認後に、データ収集を開始する。

(修士論文の申請資格)

第7条 修士論文審査の申請ができる者は、博士前期課程に所定の年限以上在学し所定の単位を修得、又は修得見込みで必要な研究指導を受けた者とする。

(学位授与の要件)

第8条 学位(修士)は、博士前期課程に所定の年限以上在学し所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた修士論文の審査及び最終試験に合格した者に対して授与される。

(修士論文の要件)

第9条 博士前期課程の学位論文は、次の各号の要件を満たすこと。

- (1) 研究論文である。
- (2) 単著論文である。

(修士論文審査の申請)

第10条 修士論文の審査を申請する者は、以下の書類を研究科長へ提出する。

- (1) 修士論文審査申請書(様式修第6号) 1部
- (2) 修士論文 4部

2 提出された書類の差し替えは認めない。

3 書類の提出期限は、年度当初に示す修士論文スケジュールに準ずる。

4 研究科長は、第1項(1)(2)以外に修士論文の審査に必要な資料の提出を求めることができる。

(修士論文の審査及び最終試験)

第11条 研究科委員会は、修士論文の提出資格を審査し資格を有すると判定した場合、修士論文審査委員会を設置する。

2 修士論文審査委員会は、第4条第1項及び第2項によって定められた主査1名、副査2名の3名により構成される。

3 研究科委員会が必要と認めるときは、前項の規定にかかわらず、他の研究科又は国内の他の大学院もしくは研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

4 論文審査委員会は修士論文の審査と最終試験の審査をおこなう。

- 5 修士論文の審査基準については別に定める（別表）。
- 6 最終試験は、修士課程を修了に値する看護学研究の能力について試問する。
- 7 主査は、修士論文審査結果報告書（様式修第7号）ならびに最終試験審査結果報告書（様式修第8号）を研究科長に提出する。

（修士論文および最終試験の合否判定）

第12条 研究科長は、研究科委員会で修士論文および最終試験の合否判定をおこなう。

- 2 研究科長は、合否判定結果を学生に速やかに通知する。

（学位授与の審議）

第13条 研究科委員会は、修士の学位の授与の可否を審議する（静岡県立大学学位規程第10条1項、静岡県立大学大学院看護学研究科規程第15条1項）。

- 2 研究科長は、審議結果を学長へ具申する。

附則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成29年12月1日から施行する。

附則

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この細則は、令和3年7月14日から施行する。

附則

この細則は、令和6年4月1日から施行する。

別表

研究計画書の審査基準

1. 研究計画書に必要な事項が述べられている。
2. 看護学に対して、当該研究の意義が明確である。
3. 研究の目的や目標が明確である。
4. 研究に必要な文献検討がされている。
5. 研究方法が適切である。
6. 研究の方法及び対象に対して、倫理的配慮がされている。

修士論文の審査基準

1. 研究の目的及び目標が明確である。
2. 看護学に対して、当該研究の意義が明確である。
3. 研究に必要な文献検討がされている。
4. 研究の方法が適切である。
5. 研究倫理審査で承認されている。
6. 研究の結果の分析・解釈が妥当である。
7. 研究の結果に対する考察が適切である。
8. 研究の限界、課題及び展望が述べられている。

申請等書類

様式修第1号

看護学研究科博士前期課程副指導教員申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

看護学研究科 看護学専攻

分野・課程

学籍番号

氏 名

印

博士前期課程における副指導教員を下記のとおり申請したいので、許可されるよう申請します。

記

副指導教員	専門分野
-------	------

指導教員(署名)

様式修第2号

看護学研究科博士前期課程研究指導教員変更申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

看護学研究科 看護学専攻

分野・課程

学籍番号

氏 名

(自署または押印)

博士前期課程における研究指導教員を下記のとおり変更したいので、許可されるよう申請します。

記

変更前 研究指導教員
変更後 研究指導教員
変更理由

※変更前後の研究指導教員からの署名を受領の上で提出すること

変更前 指導教員(署名) _____

変更後 指導教員(署名) _____

様式修第3号

看護学研究科博士前期課程専門分野変更申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

看護学研究科 看護学専攻

分野・課程

学籍番号

氏 名

(自署または押印)

博士前期課程における専門分野を下記のとおり変更したいので、許可されるよう申請します。

記

変更前 専門分野
変更後 専門分野
変更理由

※変更前後の研究指導教員からの署名を受領の上で提出すること

変更前 指導教員(署名) _____

変更後 指導教員(署名) _____

様式修第4号

修士論文研究計画審査申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

看護学研究科 看護学専攻

分野・課程

学籍番号

氏 名

印

指導教員

(自署または押印)

静岡県立大学大学院看護学研究科修士学位審査に関する細則第3条に基づき、修士論文研究計画の審査を受けたいので申請します。

記

修士論文研究計画書 4部

修士論文研究計画審査結果報告書

年 月 日

分野・課程 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

上記の研究計画を審査した結果、次のように判定しました。
(いずれかに○をしてください)

- 1. 合格
- 2. 不合格

その理由をご記入ください：

審査年月日 _____

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

修士論文審査申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

看護学研究科 看護学専攻

分野・課程

学籍番号

氏 名

印

指導教員

(自署または押印)

静岡県立大学大学院学則第49条に基づき、修士論文審査および最終試験を受けた
いので申請します。

記

修士論文 4部 (正本1部・副本3部)

修士論文の要旨 4部 (正本1部・副本3部)

..... 切 り 取 り 印

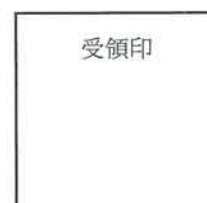
修士論文受領証

学生室にて、修士論文審査に関わる提出書類一式を受領したことを証明します。

学籍番号

氏 名

年 月 日



様式修第7号

修士論文審査結果報告書

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

年 月 日

分野・課程 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

結 果 (いずれかに○をつける)

1. 合 格

2. 不合格

その理由：

審査年月日 _____

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

様式修第8号

最終試験審査結果報告書

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

年 月 日

分野・課程 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

結 果 (いずれかに○をつける)

1. 合 格

2. 不合格

その理由：

審査年月日 _____

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

研究計画書および修士論文作成要領

研究計画書および修士論文作成要領

1. 書式

- ・原稿は A4 版用紙に横書きとし、1 ページ 40 字 × 30 行とする。
- ・フォントは 10.5 ポイント、余白は左右 30 mm、上部 30 mm、下部 35 mm とする。
- ・ページの下部、中央にページ数を打つ。
- ・片面印刷とする。

2. 表紙

- ・表紙は所定の様式で付する。【別紙】の表紙例を参照。

3. 目次

- ・本文の前に目次をつけ、論文のアウトラインを示す。

4. 本文の記載方法

- ・パラグラフの開始行は文頭を、1 文字下げ 2 文字目から記述する。
- ・原則として新かなづかいを用い、特別な用語以外はなるべく常用漢字を用いる。
- ・字体は、見出しおよび強調部分など特別な場合はゴシック体、外国語・数字には Times New Roman Bold を用いる。それ以外は明朝体または Times New Roman を用いる。
- ・句読点及びカッコは 1 文字分（全角）を使用し、改行した段落の行頭は、1 文字下げる。
- ・外来語はカタカナとし、外国人名および日本語として未定着の語は原語のまま記す。その際、単語は 2 行にまたがらないよう、ハイフンを使用せず後送りして改行する。
- ・学術誌名、学名、生物名などは斜字体（イタリック）を用いる。
- ・度量衡の単位表示は、各専門領域の慣例に従う。
- ・数字は特別の場合以外は算用数字を用い、1 マス 2 文字（半角）で処理する。また、数字は 2 行にまたがらないようにする。
- ・略語は、初出時に正式用語を示し、略語を [] に入れて付記すること。ただし、度量衡などの単位についてはその必要はない。略語を多数用いる場合には、最初もしくは付録に略語一覧を掲載する。

<記載例> Certified Nurse Specialist [CNS]

専門看護師 (Certified Nurse Specialist ; 以下 CNS)

5. 図、表及び写真の処理

- ・図、表、写真は、それぞれ種類ごとに通し番号と表題を付し、それを説明した本文近くの適当な場所に添付もしくは表示する。
- ・図、表、写真などが多く、本文に挿入すると煩雑になると考えられる場合には、

一括して本文のあとに付録としてつけてもよい。その際、目次にその付録の内容一覧を示す。

6. 論文の構成

- ・構成は、緒言、方法、結果、考察、結論、文献とする。
なお、内容から必要であれば、論文の構成を変更してもよい。
- ・方法や結果などで下位セクションが必要な場合は、例として以下に示す第2階層から第7階層までの6つの階層から構成する。
第2階層：I. II. III. 中央揃え
第3階層：A. B. C. 左端揃え
第4階層：1. 2. 3. 左端揃え
第5階層：a. b. c. 見出しのみ、本文左端より1文字下げる
第6階層：1) 2) 3) 上位の見出しより1文字下げる
第7階層：a) b) c) 上位の見出しより1文字下げる

7. 図、表の表題のつけ方

- ・図の表題：表題の頭に通し番号を付し、図の下に記す。
- ・表の表題：表題の頭に通し番号を記し、表の上に記す。
- ・罫線は横罫のみ使用する。横罫も最小限にとどめる。

8. 文献の記載について

- ・米国心理学会 American Psychological Association. (2020) . Publication manual of the American Psychological Association (7th ed.) . Washington, DC: Author. または International Committee of Medical Journal Editors. Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals: Writing and Editing for Biomedical Publication. <http://www.icmje.org/> に準拠する。

9. 注記について

- ・本文に注をつけるのは、以下の場合である。
 - ①本文中に論じられたテーマを補強したり、別の見方や情報、説明などを示したいが、本文に書き込むと論旨が混乱したり、ぼやけてしまったりする可能性がある場合。
 - ②引用の典拠や引用についての許諾などについてその場で示したい場合。
- ・脚注は文章の脇に*印もしくは肩数字を付け、そのページの下部、欄外にその内容を記す。同じページに複数の脚注がある場合には、順に*、**、***もしくは数字で順番を示す。
- ・図表の引用注は図や表に示されたデータに関する注は、*、†、‡, §, ||, ¶, **, ††, ‡‡ 順で記号を用い、図表のすぐ下に記載する。
- ・引用の場合、図表のすぐ下に出典を示し、文献リストにも含める。

10. 研究計画書の追加事項

- ・研究計画書はファイルに綴じて提出する。

11. 修士論文の追加事項

- ・修士論文はファイルに綴じて提出する。
- ・表紙の後に要旨を添付し、ファイルに綴じる。
- ・要旨は2,400字以内とする。
- ・キーワードを3～5語、要旨の下段に記載し、五十音順に並べて記述する。
- ・最終論文は2部、ファイルに綴じずに提出する（穴あけ不要）。

【別紙】 修士論文表紙例

上下余白 4.5cm 左右余白 3cm

(西暦) 年度 修士論文

(明朝体 15～18 ポイント)

研究題目名

(15～18 ポイント)

看護学専攻 (10～11 ポイント)

学籍番号 (10～11 ポイント)

氏名 (15～18 ポイント)

* 字体は明朝体または Times New Roman を用いる。

* 本文中は、見出しおよび強調部分など特別な場合はゴシック体、外国語・数字には
Times New Roman Bold を用いる。

II. 博士後期課程

1. 教育理念

静岡県立大学大学院看護学研究科の教育理念は、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の育成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究及び実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

2. 学位授与方針、教育方針、入学時に期待する学生像

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、所定の単位を修め、博士論文審査及び最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして博士（看護学）の学位を授与する。

1. 各自の実践看護分野を基軸として、自律的に、研究計画を立案し、計画的、継続的に研究を実施できる能力を修得している。
2. 現在の社会背景、地域における健康課題、ケア対象者や地域住民のニーズを的確に察知でき、自らの研究の意義や自己の果たすべき役割を論理的に述べる能力を身につけている。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に積極的に取り組み、多様な課題を解決しようとする姿勢を身につけている。
4. 看護研究者・教育者として必要な倫理的・探求的態度、人間性、教育的姿勢を身につけている。

教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 専門領域における実践の基盤となる理論と知識を学び、健康課題を発見し、その解決に向けて、学際的に、自律して看護研究を計画・実施できるための教育課程を編成する。
2. 生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、およびわが国の社会保障制度や保健医療福祉政策を学び、広く社会のニーズに対応できる、柔軟な適応力を醸成する教育を行う。
3. 国内外の研究者との交流、国内外の学会での発表が行えるような体制をつくり、看護研究者としての基盤を形成できるような教育を行う。

入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士後期課程の重要な目的は、看護研究を主導できる研究者、看護サービスの質の向上や看護学の教育の改善に寄与する研究を担うことができる人材を養成することである。そのために、学生は、入学時点で以下の能力を有していることが求められる。

1. 看護学および看護実践への強い関心を持ち、これまでの看護実践活動と研究成果から取り組むべき研究課題を見出し、研究を通して、看護学の発展や地域・社会に貢献しようとする意思を有している。
2. 看護専門職として必要な教養と倫理観、語学力や看護学に関する高度な知識・技術を持ち、これまでの看護研究の経験を通して培った基礎的研究能力を有している。
3. 論理的思考と柔軟な発想をもち、様々な課題を解決して真理を探究し、継続的に、自律して研究を実践する強い意思を有している。

3. 博士後期課程スケジュール

2026年度 入学生

年次	月日	事項
1年次	4月初旬	新入生ガイダンス
	4月初旬	入学式
	4月初旬	前期授業開始
	4月下旬まで	前期履修登録
	10月初旬	後期授業開始
	10月中旬まで	後期履修登録
	適時	第1回博士論文検討会（研究計画書の審査）
2年次	4月初旬	在学生ガイダンス
	4月初旬	前期授業開始
	4月下旬まで	前期履修登録
	10月初旬	後期授業開始
	10月中旬まで	後期履修登録
	適時	第2回博士論文検討会（中間発表）
3年次	4月初旬	在学生ガイダンス
	4月初旬	前期授業開始
	4月下旬まで	前期履修登録
	10月初旬	後期授業開始
	10月中旬まで	後期履修登録
	10月初旬	予備審査会申請書提出締め切り
	1月中旬	論文提出・論文審査申請書提出 締め切り
	1月中旬	論文審査・最終試験
	2月中旬	最終論文最終締め切り
	3月初旬	博士論文発表会
	3月中旬	学位記授与式

その他予定は、年間授業予定表参照のこと。

書類等の提出物の提出先および締め切りは、小鹿キャンパス学生室・17時とする。

博士後期課程 履修及び論文作成スケジュールのモデル

時期		内容		
1 年次	前期	4月	共通科目1～3科目 「看護学研究特講」 「生体環境科学特講」 「保健福祉政策特講」	看護学特別研究Ⅰ
			看護学特講	
			看護学特別演習	
		5月		
		6月		
		7月		
	後期	8月		副指導教員の希望申請(様式博第1号提出) 研究計画の立案
		9月		
		10月		第1回博士論文検討会の準備 研究計画書審査の申請(研究計画書・様式博第3号提出)
		11月		第1回博士論文検討会(研究計画審査)
		12月		
		1月		研究倫理審査申請
2 年次	前期	4月	共通科目1～2科目 「生体環境科学特論」 「保健福祉政策特論」	看護学特別研究Ⅱ
		5月		
		6月		研究遂行
		7月		
		8月		
		9月		学会発表
	後期	10月		副論文の投稿(必要時)
		11月		第2回博士論文検討会準備
		12月		第2回博士論文検討会(研究中間発表)
		1月		
		2月		
		3月		
3 年次	前期	4月		看護学特別研究Ⅲ
		5月		
		6月		学会発表
		7月		博士論文作成
		8月		
		9月		副論文の学術誌掲載(採用決定通知可)
	後期	10月		予備審査の申請(博士論文・要旨・副論文・様式博第7号提出) 予備審査会
		11月		論文修正
		12月		
		1月		論文審査の申請(博士論文・要旨等と様式博第10号提出) 博士論文審査会
		2月		
		3月		博士論文発表会 修了

*前ページの博士後期課程スケジュールを目安としており、長期履修者はこの限りではない。

教育課程／履修方法

4. 教育課程

授業科目・開講年次・単位数一覧

	授業科目	開講年次	単位数		
			必修	選択	
共通科目	必修	看護学研究特講	1前	2	
	選択	生体環境科学特講	1前・2前		2
		保健福祉政策特講	1前・2前		2
専門科目	選択	看護技術開発特講	1前		2
		感染看護学特講	1前		2
		小児看護実践開発特講	1前		2
		助産学特講	1前		2
		がん看護理論特講	1前		2
		周手術期看護学特講	1前		2
		精神保健看護学特講	1前		2
		地域・在宅看護システム特講	1前		2
		国際看護学・看護管理学特講	1前		2
		公衆衛生情報学特講*	1前		2
		老年看護学特講*	1前		2
演習・研究科目	必修	看護学特別演習	1通	2	
		看護学特別研究Ⅰ	1通	2	
		看護学特別研究Ⅱ	2通	2	
		看護学特別研究Ⅲ	3通	4	

*：2026年度は開講しない。

教育の方法、授業科目

看護学研究科の教育は、授業科目の講義、演習及び実習、学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。授業科目の種類及び単位数等は、静岡県立大学大学院看護学研究科規程 大学院学則の別表（二）看護学研究科（博士後期課程）のとおりとする。

研究指導

入学時に学生ごとに指導教員を定める。学生は、履修する授業科目の選択及び研究にあたり、指導教員の指導を受けなければならない。研究指導は、原則として指導教員 1 名と副指導教員 1 名の計 2 名で行うこととし、1 年次 9 月までに副指導教員を決定する。

教育課程の構造

博士論文					
	研究科目	共通科目		専門科目	演習科目
	必修	必修	選択	選択	必修
3年	看護学特別研究Ⅲ				
2年	看護学特別研究Ⅱ				
1年	看護学特別研究Ⅰ	看護学研究特講	生体環境科学特講 保健福祉政策特講	老年看護学特講 公衆衛生情報学特講 国際看護学・看護管理学特講 地域・在宅看護システム特講 精神保健看護学特講 周手術期看護学特講 がん看護理論特講 助産学特講 小児看護実践開発特講 感染看護学特講 看護技術開発特講	看護学特別演習

授業科目の構成

共通科目(必修)

看護を科学的に探究するために、看護に関する研究論文を通して看護学の構築及び必要な研究手法の概要を学ぶ。看護学を発展させる研究者として研究活動に必要な高度な研究手法について文献の検索やクリティークを通し、その能力を修得するに必要となる「看護学研究特講」で構成される。

共通科目(選択)

様々なケア対象者や複雑化している環境・社会を理解するために、生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、及びわが国の社会保障制度保健医療福祉政策を学ぶ「生体環境科学特講」と「保健福祉政策特講」を選択できる。

専門科目

専門科目として、専門性の高い実践の基盤となる理論と知識、実践と研究の課題、用いられる研究方法について追究し、学位論文への取り組みへ導く「特講科目」を設定する。

演習・研究科目

看護学研究特講での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。多様な看護の対象を踏まえ、文献クリティーク、フィールドワークなどの演習を通して、自己の研究課題を明確にする「看護学特別演習」を設定する。

そして、学位論文の研究に計画的に取り組むために、「看護学特別研究」を設定する。本課程での成果としての学位論文を標準修業年限の3年間で達成するためには、計画的に取り組む必要がある。そのため、「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」「看護学特別研究Ⅲ」として8単位を1～3年・通年で設定する。

履修モデル例

科目区分	授業年次	開講年次	単位数		1年次	2年次	3年次
			必修	選択			
共通科目	看護学研究特講	1前	2		→		
	生体環境科学特講	1・2前		2			
	保健福祉政策特講	1・2前		2		→	
専門科目	看護技術開発特講	1前		2			
	感染看護学特講	1前		2			
	小児看護実践開発特講	1前		2			
	助産学特講	1前		2	→		
	がん看護理論特講	1前		2			
	周手術期看護学特講	1前		2			
	精神保健看護学特講	1前		2			
	地域・在宅看護システム特講	1前		2			
	国際看護学・看護管理学特講	1前		2			
	公衆衛生情報学特講	1前		2			
老年看護学特講	1前		2				
研究・演習科目	看護学特別演習	1通	2		→		
	看護学特別研究Ⅰ	1通	2		→		
	看護学特別研究Ⅱ	2通	2			→	
	看護学特別研究Ⅲ	3通	4				→
合計			12	4	16		

5. 履修方法

1) はじめに

本項では、大学院での授業の仕組みと、その履修に必要な手続き等を静岡県立大学大学院学則及び履修細則に従って解説する。授業の内容や事務上の手続きを熟知し、学修に支障がないように、この「履修方法」を十分活用する。また、4月に行われるガイダンスを必ず受け、不明な点は学生室に相談する。

以下、単位制、授業、授業科目、履修申告、試験、成績評価、修了、授業科目一覧、講義概要について、熟読のうえ今後の学修に役立てる。

2) 単位制

(1) 単位制とは

単位とは、一定の質の勉強ないし学修の量を示す基準となるものである。研究科で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して合格すれば、単位を修得できる。

本学における学修は、単位数によって修了の可否が決定される。

(2) 単位と時間数

①授業は前期、後期の2学期に分けて実施され、原則として15週をもって1学期、30週をもって1学年としている。

②1単位の履修時間は、教室の内外合わせて45時間である。従って、1科目につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。

区分	1単位の履修時間		計
	授業時間 (教室内)	自習時間 (教室外)	
講義	15	30	45
演習	15	30	45

3) 授業

(1) 学期

本学での授業は、15週にわたる期間を単位として、前期・後期の2学期制を採用している。

(2) 授業時間

授業時間は、学生便覧を参照する。

(3) 授業時間割

授業時間割表は、前・後期に分けて作成され、4月のガイダンスの際に配布される。時間割は配布後、変更する場合がある。

(4) 休講、補講、集中講義等

①休講等

休講、授業時間及び授業場所の変更は、Web 学生サービスシステムまたは担当教員に確認する。休講の連絡がなく講義が行われなかった場合は、学生室にて確認する。

②補講

補講が行われる場合には、Web 学生サービスシステム等により連絡をする。

③集中・隔週講義

科目によっては、ある一定期間内に集中して行う講義または隔週に行う講義がある。詳細については Web 学生サービスシステム等で連絡する。

4) 授業科目

(1) 授業科目の分類

授業科目は、共通科目と専門科目から構成される。

①共通科目は、看護学の実践・教育・研究の土台となる理論や技法、保健医療に関連した諸科学を履修することで看護専攻領域の専門知識を深める。

②専門科目は、看護の特定の領域における科学的な知識や実践能力、研究的な思考能力を養う。

(2) 必修・選択等による履修区分

授業科目は、修了の要件として履修しなければならないか否かにより次のように分類される。

①必修科目：必ず修得しなければならない科目

②選択科目：指定された科目群のうち、所定の単位を必ず修得しなければならない科目

5) 履修登録

指導教員の個別指導を受けた上、履修する科目を決定し、所定の期日までに登録する。

(1) 履修登録は、前・後期各期に行うこととし、4月と10月に、Web 学生サービスシステムにより行う。登録期間は授業開始後2週間以内とする。履修すべき科目が登録されていることを必ず確認し、登録されていない場合は速やかに登録する。

(2) 他研究科の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を得たうえで、当該研究科長の許可を受けなければならない。この許可願は、所定の書式（用紙は学生室にある）により、授業開始後2週間以内に学生室に提出する。他研究科の授業科目を履修した者には単位の認定を行うが、修了必要単位数には算入しないので注意する。

6) 試験

(1) 試験とは

大学院は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験のうえ単位を与える。試験は授業担当教員の判断により、筆記・口頭試問・実技テスト等の方法で行われる。

(2) 試験の種類

①定期試験

定期試験は、各学期の終了時に2週間にわたり実施される。定期試験時間割は、試験開始の原則10日前にWeb学生サービスシステム等により発表される。

②随時試験

定期試験期間以外に、授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。この場合、授業中やWeb学生サービスシステム等で伝達される。

③追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

- ・病気（ただし、医師の診断書を要する）
- ・忌引（1・2親等に限り、死亡の日より1週間以内）
- ・就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）
- ・その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意する。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に追試験願（用紙は学生室にある）にその事由を詳記し、医師の診断書またはその事由を証明する書類を添付し、学生室に届け出る。

④受験上の注意

試験場内では、すべて監督者の指示、またはあらかじめ指示されている事項に従う。

7) 成績評価

(1) 成績評価の方法

成績評価は、静岡県立大学大学院看護学研究科規程及び担当教員の評価方針により、試験、レポート等における学生の学修実績に基づき、優・良・可・不可の評語で表現される。

(2) 成績評価の基準

- 優： 100点～80点
- 良： 79点～70点
- 可： 69点～60点
- 不可： 59点以下

(3) 成績評価の発表

成績評価は、Web学生サービスシステムで確認できる。

8) 修了要件

(1) 修業年限

標準修業年限は3年とする。

(2) 取得単位数

修了要件となる授業科目について必要な取得単位数は16単位以上（共通科目4単位以上、専門科目2単位、演習・研究科目10単位）とする。

(3) 修了要件

修了要件は、博士後期課程に3年以上在籍し、授業科目について所定の単位数を取得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

9) 学位記の授与

論文審査及び最終試験に合格し、研究科委員会が学位授与を承認した場合、その結果を学長に報告し、学長より博士(看護学)の学位記が授与される。

10) 論文要旨等の公表

文部科学省令学位規則第8条に基づき、博士の学位を授与した日から3ヶ月以内に当該博士の学位授与に係る論文内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を本学ホームページ上の機関リポジトリにて公表する。

博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に自身の博士論文をインターネット上で公表することが義務付けられている。公表に当たっては、学位を授与した大学の機関リポジトリによる公表を原則としているため、本学では「静岡県立大学・短期大学部機関リポジトリ」を利用して博士論文を公表する。なお、学位を授与された日から1年を超えて全文の公表ができないやむを得ない事由があると研究科に認められた場合は、その事由が解消するまでの間、全文の公表を保留し、要約を公表することができる。

講義概要

【科目名】	看護学研究特講	【科目英語名】	Nursing Research Methodology
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業形態】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	荒井孝子、篁宗一、竹熊カツマタ麻子、富安眞理、林みよ子、藤田景子、操華子、山下早苗、山田紋子		
【担当教員】	荒井孝子、篁宗一、竹熊カツマタ麻子、富安眞理、林みよ子、藤田景子、操華子、山下早苗、山田紋子		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護を科学的に探求するために、看護に関する研究論文を通して看護学の構築および必要な研究手法の概要を学ぶ。看護学を発展させる研究者として、研究活動に必要な高度な研究手法について文献の検索やクリティークを行う。 【キーワード】看護研究、研究手法、クリティーク		
【授業目標】	1. 看護研究の特徴と概要について説明することができる。 2. 看護研究におけるさまざまな研究手法の特徴を理解できる。 3. 研究課題に適切な研究方法を選択できる。		
【授業展開】	【授業方法】 対面もしくはオンライン 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習／フィールドワーク 【授業内容】 第1回 看護学における実践と研究 第2回 看護学における実践と研究 第3回 研究の概念 第4回 研究の概念 第5回 看護学における研究手法の特徴 第6回 看護学における研究手法の特徴 第7回 看護研究課題の選択 第8回 看護研究課題の選択 第9回 研究デザインの設計 第10回 研究デザインの設計 第11回 測定の理論と妥当性 第12回 測定の理論と妥当性 第13回 関連文献の検討方法 第14回 研究倫理 第15回 実際の論文クリティーク ※講義の展開については指導教員に確認をすること		
【事前・事後課題】	授業ごとの個別課題は、各授業回で指示する。		
【準備学習時間】	各授業回で指示する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学特論、看護学特別研究Ⅰ、看護学特別研究Ⅱ、看護学特別研究Ⅲ		
【評価方法】	プレゼンテーション(30%)、課題レポート(50%)、討議(20%)から総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	メールで質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	・Polit & Beck's Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 12th (2024)/J.Flanagan & C.T.Beck /Wolters Kluwer/ISBN:978975223816		
【参考書】	・Burns and Grove's 'The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 10th (2025)/J.R.Gray, S.K. Grove & D.J.Cipher/Elsevier/ISBN:9780443115097 その他、適宜紹介する		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	生体環境科学特講	【科目英語名】	Advanced Seminar on Bio-Environmental Sciences
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	□必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	荒井孝子	【授業時間数】	30 時間
【担当教員】	荒井孝子、井上健一郎		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	多様性に富むケアの受け手への看護支援を前提におき、自らの研究課題を踏まえ、生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、研究知見を活用した科学的エビデンスの構築、看護介入の開発の方法論を習得する。 【キーワード】環境、生体反応、健康阻害因子、看護介入		
【授業目標】	1. 我が国における社会環境医学の現状と健康の諸理論と概念について討議できる。 2. 環境がヒトの健康に及ぼす影響とその研究について討議できる。 3. 健康を守るために必要な看護介入の開発・提案のための方法論を検証できる。		
【授業展開】	<p>【授業方法】</p> <p>下記の課題に関して、履修者自らが興味を持ったテーマを設定し、著作もしくは論文などの文献を用いて、講義・討論を実施する。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：環境に適應する生体に関する諸理論とその概念（荒井） 第 2 回：大気環境とアレルギーに関する諸理論とその概念（井上） 第 3 回：生活習慣と環境に関する諸理論とその概念（荒井） 第 4 回：環境と生体反応に関する解剖・組織学的エビデンス 1（荒井） 第 5 回：環境と生体反応に関する解剖・組織学的エビデンス 2（荒井） 第 6 回：環境と生体反応に関する臨床研究のエビデンス 1（井上） 第 7 回：環境と生体反応に関する臨床研究のエビデンス 2（井上） 第 8 回：環境と生体反応に関するコホート研究のエビデンス 1（荒井） 第 9 回：環境と生体反応に関するコホート研究のエビデンス 2（荒井） 第 10 回：健康を守るために必要な医療的介入の分析 1（井上） 第 11 回：健康を守るために必要な医療的介入の分析 2（井上） 第 12 回：健康阻害因子とその予防的介入 1（荒井） 第 13 回：健康阻害因子とその予防的介入 2（荒井） 第 14 回：健康問題に関する看護介入の提案と理論的背景の検証・討議 1（荒井・井上） 第 15 回：健康問題に関する看護介入の提案と理論的背景の検証・討議 2（荒井・井上）</p>		
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。授業は各自が作成した資料に基づきプレゼンテーションおよび討論にて進める。		
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	なし		
【評価方法】	プレゼンテーション 50%、ディスカッション 50%により、総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	・環境アセスメント学入門／田中充、上杉哲郎ほか／恒星社厚生閣／ISBN:978-4769916338 ・社会を変える健康のサイエンス：健康総合科学への 21 の扉／東京大学医学部肩甲総合学科（編集）／東京大学出版会／ISBN:978-4130634069		
【参考書】	・最新図解 PM2.5 と大気汚染がわかる本／鏡村 曜／オーム社／ISBN: 978-4274504730 ・NEW 予防医学・公衆衛生学（改訂第 4 版）／岸玲子（監修）／南江堂／ISBN: 978-4524251162		

【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	保健福祉政策特講		【科目英語名】	Doctoral Seminar in Health and Welfare Policy	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	東野定律				
【担当教員】	東野定律				
【DP との関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>わが国の医療・介護サービスにおける経営持続性について教授し、医療介護制度改革の動向を鑑み革新的な事業経営研究や医療・介護に関する政策手法や制度の特色も含めて考察を行う。</p> <p>地域包括ケアシステム改革の流れを概観し、政策評価・実証的なデータに基づく医療介護サービスのマネジメント方法を習得する。</p> <p>【キーワード】医療介護サービス、医療介護制度</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の医療・介護サービスにおける経営持続性について討議できる。 2. 医療介護制度改革の動向とその研究について討議できる。 3. 医療・介護保険制度に関する政策手法や制度の特色を討議できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回 オリエンテーション・医療・看護政策の仕組みと変化</p> <p>第 2 回 医療・看護政策と診療報酬制度</p> <p>第 3 回 わが国の医療供給体制と病院の仕組み</p> <p>第 4 回 組織とケアマネジメント</p> <p>第 5 回 医療・介護職としてのキャリアディベロップメント</p> <p>第 6 回 個人の医療サービスと消費プロセス</p> <p>第 7 回 地域医療と訪問看護</p> <p>第 8 回 医療情報としての看護必要度</p> <p>第 9 回 看護必要度評価データの看護管理への活用</p> <p>第 10 回 医療介護サービスの質の評価・改善</p> <p>第 11 回 介護保険制度の持続性</p> <p>第 12 回 地域包括ケアの実態と地域医療</p> <p>第 13 回 保健医療福祉職における連携実態</p> <p>第 14 回 医療・介護におけるサービスイノベーション</p> <p>第 15 回 全体討議</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	各特講				
【評価方法】	授業毎の課題(ミニレポート)50%、プレゼンテーション(グループ発表)および最終課題レポート 50%で評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	地域包括ケアシステムの深化: integrated care 理論を用いたチェンジマネジメント／筒井孝子／中央法規出版／ISBN:978-4805859414				
【参考書】	その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	事前面談あり		【科目等履修生】	事前面談あり	

【科目名】	看護技術開発特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Nursing Technological Development
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	荒井孝子	【授業時間数】	30 時間
【担当教員】	荒井孝子		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護技術の原理と構造を理解するため、哲学的基盤と理論的背景について学ぶ。エビデンスに基づいた看護技術の開発と検証について、その方法論を学ぶ。 【キーワード】看護技術、技術開発		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術に関する哲学的基盤、理論的背景の概要を説明できる。 2. 技術開発の過程において、生理学的な視点でその看護技術を検証できる。 3. 開発された看護技術について、臨床的意義を検討できる。 4. 看護技術の質を高めるために、教育ツールの開発を含めた方法論の検討ができる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回 オリエンテーション、看護技術の開発とは 第 2 回 看護技術論① 看護技術の背景 第 3 回 看護技術論② 看護技術の背景 第 4 回 看護技術論③ 看護技術に関連する理論 第 5 回 看護技術論④ 看護技術に関連する理論 第 6 回 看護技術論⑤ 看護技術の構造化 第 7 回 看護技術論⑥ 看護技術の構造化 第 8 回 看護技術の検証とその評価－生理学的手法による検討① 第 9 回 看護技術の検証とその評価－生理学的手法による検討② 第 10 回 看護技術の質を高めるための教育ツールの開発① 第 11 回 看護技術の質を高めるための教育ツールの開発② 第 12 回 看護技術の質を高めるための教育ツールの開発③ 第 13 回 看護技術とその開発① 第 14 回 看護技術とその開発② 第 15 回 看護技術開発の課題とその展望</p>		
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。授業は各自が作成した資料に基づきプレゼンテーションおよび討論にて進める。		
【準備学習時間】	各自、授業回や自己の能力に応じて設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
【評価方法】	ディスカッション 40%、プレゼンテーション 40%、課題レポート 20%		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	・Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 11th (2020)／D.F.Polit & C.T.Beck ／Wolters Kluwer／ISBN:1975110641 他は、授業中に適宜紹介する。		
【参考書】	・BURNS AND GROVE'S The Practice of Nursing Research-Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 9th (2021). / J.R.Gray & S.K.Grove / Elsevier / ISBN:0323673171 その他、適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	感染看護学特講		【科目英語名】	Doctoral Seminar in Infection Control Nursing	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	操華子				
【担当教員】	操華子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	世界規模で問題となっている感染症の現状について理解し、感染制御(感染管理)ならびに感染症看護の課題を探求するための学術的な基礎知識ならびに技術を修得する。 【キーワード】感染制御、感染管理、感染症看護、認識論的知識、存在論的知識				
【授業目標】	1. グローバルな視点から現在の感染症による問題・課題を明らかにできる。 2. 感染制御・感染症看護に寄与する理論開発のための方法を説明できる。 3. 感染予防対策のエビデンスを探求する方法を説明できる。 4. 感染症患者への看護介入ならびにその効果測定をデザインすることができる。				
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回:オリエンテーション、感染症の現状(世界、日本) 第 2 回: epistemological issue① 理論理解の基礎知識 第 3 回: epistemological issue② 概念分析と概念開発 第 4 回: epistemological issue③ 理論分析・理論開発 第 5 回: epistemological issue④ 理論評価 第 6 回: epistemological issue⑤ 感染制御・感染症看護に寄与する理論 第 7 回: epistemological issue⑥ 感染制御・感染症看護に寄与する周辺理論 第 8 回: ontological issue① 研究手法 量的研究法と質的研究法 第 9 回: ontological issue② 研究手法 パラダイム論争 第 10 回: ontological issue③ 研究手法 ミックス法(混合研究法) 第 11 回: ontological issue④ 感染予防策の効果検証研究の吟味① 第 12 回: ontological issue⑤ 感染予防策の効果検証研究の吟味② 第 13 回: ontological issue⑥ 感染予防策の効果検証研究の吟味③ 第 14 回: ontological issue⑦ integrated literature review と systematic review① 第 15 回: ontological issue⑧ integrated literature review と systematic review②</p>				
【事前・事後課題】	<p>事前課題</p> <p>第 1 回 シラバス内容の確認 第 2 回 テキスト1) 第1・2章、2) 第1章の精読 第 3 回 テキスト1) 第3章、3) Part2の精読 第 4 回 テキスト1) 第4章、3) Part4の精読 第 5 回 テキスト1) 第5・6・7章の精読 第 6・7 回 テキスト1) 第13～18章の精読 自身の研究課題の基盤となる理論についての発表準備 第 8・9 回 テキスト4)、5)、6)、8) 第2、3部の精読 第 10 回 テキスト7)、8) 第2部の精読 第 11・12・13 回 参考図書を精読後、自身で選定した文献の批判的吟味の結果の発表準備 第 14・15 回 テキスト8) 第4部、9)の精読 自身の研究課題に関する文献レビューの発表準備</p> <p>事後課題 各授業終了時に指示する。</p>				
【準備学習時間】	自身の学習ペースに応じて、履修生自身で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学研究特講				
【評価方法】	事前課題の準備状況・プレゼンテーション(50%)、討議(50%)から総合的に評価する。				

【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	<p>1) Theoretical Basis for Nursing (5th ed.) / McEwen M. & Wills, E. M. / Wolters Kluwer / ISBN:978-1-4963-7982-5</p> <p>2) Knowledge Development in Nursing: Theory and Process (10th ed.) / Chinn, P.L. & Kramer, M.K. / ISBN:9978-0-323-53061-3</p> <p>3) Strategies for Theory Construction in Nursing (4th ed.) / Walker, L.O. & Avant, K.C. / Pearson Prentice Hall / ISBN:90-13-119126-8</p> <p>4) 社会科学の考え方: 認識論、リサーチデザイン、手法 / 野村康 / 名古屋大学出版会 / ISBN:978-4-8158-0876-1</p> <p>5) 社会科学のパラダイム論争: 2つの文化の物語 / Goertz, G. & Mahoney J., 西川賢・今井真士訳 / 勁草書房 / ISBN:9978-4-326-30242-0</p> <p>6) 社会科学の方法論争 / Brady, H. E. & Collier, D. Eds., 泉川泰博・宮下明聡訳 / 勁草書房 / ISBN:9978-4-326-30176-8</p> <p>7) Best practices for Mixed Methods Research in the Health Science / NIH Office of Behavioral and Social Science Research</p> <p>8) 現在の医学的研究方法 / Liamputtong, P. ed., 木原雅子・木原正博訳 / メディカル・サイエンス・インターナショナル / ISBN:9978-4-89592-714-7 C3047</p> <p>9) The Handbook of Research Synthesis / Cooper, H. & Hedges, L.V. / Russell Sage Foundation / ISBN:90-87154-226-9</p>		
【参考書】	<p>医療専門職のための研究論文の読み方: 批判的吟味がわかるポケットガイド / Crombie, I.K., 津富宏訳 / 金剛出版 / ISBN:9978-4-7724-0988-9</p> <p>臨床研究を正しく評価するには / Furberg, B.E. & Furberg, C.D., 折笠秀樹訳 / ライフサイエンス出版 / ISBN:9978-4-89775-313-3</p> <p>論文を正しく読むのはけっこう難しい / 植田真一郎 / 医学書院 / 9787-4-260-03587-3</p> <p>Critical appraisal of epidemiological studies and clinical trials (2nd ed) / Elwood, M. / Oxford University / ISBN:90-19-262744-9</p>		
【備考】	<p>※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。</p> <p>※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。</p>		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	小児看護実践開発特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Child Health Nursing
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山下早苗		
【担当教員】	山下早苗		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	国内外における小児看護の研究の動向を外観し、小児看護実践の質向上および発展に寄与する研究を行うために、理論枠組みを用いた研究方法、科学的エビデンス構築や理論開発に向けた研究方法を習得する。また、子どもを対象とした研究方法についても検討する。 【キーワード】小児看護、研究方法、理論		
【授業目標】	1. 国内外における小児看護の研究の動向と課題を説明できる。 2. 小児看護を科学的に探求する研究方法を説明できる。 3. 子どもを対象とした研究方法を説明できる。		
【授業展開】	【授業方法】対面もしくはオンラインによる講義、プレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディバード <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク 【授業内容】 第 1 回:ガイダンス 第 2 回～3 回:国内外における小児看護の研究の動向と課題について検討 第 4 回～5 回:不確かさ理論枠組みを用いた小児看護の研究方法について検討 第 6 回～7 回:症状マネージメント理論枠組みを用いた小児看護の研究方法について検討 第 8 回～9 回:小児看護におけるセルフケア理論開発に向けた研究方法について検討 第 10 回～11 回:小児看護における科学的エビデンス構築に向けた研究方法について検討 第 12 回～13 回:子どもを対象とした研究方法と倫理的配慮について検討 第 14 回～15 回:関心のある研究課題に関する「概念分析」または「スコーピングレビュー」		
【事前・事後課題】	主体的に参画し、研究能力と専門性を発揮できるよう事前準備と事後学習を行う。 課題は初回のガイダンスおよび各授業回で指示する。		
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講		
【評価方法】	課題レポート(20%)、プレゼンテーション(40%)、討議(40%)で総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	質問はメールにて受け付ける。 内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 2 版. D.F.ポーリット & C.T.ベック(著)/近藤潤子(監訳), 医学書院. ISBN 9784260005265		
【参考書】	事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 第 2 版. 佐藤栄子 編著, 日総研, ISBN9784776014140 看護実践に活かす中範囲理論 第 2 版. 野川道子 編著, メジカルフレンド社, ISBN 9784839216122 よくわかる看護研究論文のクリティーク 第 2 版. 松本清子, 山川みやえ編著, 日本看護協会出版会, ISBN 9784818022713		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	助産学特講		【科目英語名】	Doctoral Seminar in Midwifery	
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	藤田景子				
【担当教員】	藤田景子				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>助産学およびウィメンズヘルスに関連する理論と概念について理解し、概念分析、Evidence-based Practice のステップを学ぶと共に、様々な研究デザインの論文をクリティークすることを通して、論文を批判的に読む力を身につける。また、各自の助産学領域における関心テーマに関連した、既存の研究論文のクリティークを行い、各自の研究課題と研究の位置づけを明確にする。</p> <p>【キーワード】 Evidence-based Practice、クリティーク、概念分析</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学およびウィメンズヘルスに関連する理論と概念について説明できる。 2. シナリオから、それに関連する文献を検索して、Evidence-based Practice のステップに沿って検討して、文献の批判的吟味ができる。 3. 文献のクリティークの方法が理解でき、各自の関心あるテーマの文献をクリティークしながら読むことができる。 4. 自己の研究課題を明確にできる。 5. 自己の研究課題に沿って、文献レビューを行い、仮説の設定や概念図を作成できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】各回、テーマにそったゼミ形式で実施する。ゼミでは、レジュメを作成し発表して討論をすすめる。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回:ガイダンス 第2回:助産学に関連する理論とその概念 第3回:ウィメンズヘルスに関連する理論とその概念 第4回:概念分析 第5回:研究の枠組みと研究方法のクリティーク 第6回:Evidence-based Practice 課題について 第7回: Evidence-based Practice 発表 RCT 第8回:助産学研究の論文クリティーク 発表(1) 量的研究 第9回:助産学研究の論文クリティーク 発表(2) 質的研究 第10回:研究テーマに関する既存研究 発表 (1) 第11回:研究テーマに関する既存研究 発表 (2) 第12回:研究課題(research question)の検討 第13回:研究の意義、研究目的の検討 発表と討議 第14回:研究課題と文献レビュー 第15回:関心のあるテーマに関連する実践の問題と課題のまとめ</p>				
【事前・事後課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・Evidence-based Practice、文献クリティーク (1)、文献クリティーク (2) の課題についてクリティークシートを用いてレポートを作成し、プレゼンテーションの準備を行う。 ・自分の関心あるテーマから研究課題を明確にして、それに関する文献検索、文献カードの作成を行う。 ・各自の関心ある研究課題について文献レビューを作成する。 				
【準備学習時間】	各自で課題の取り組み状況に応じて、主体的に計画を立案して各自が設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
【評価方法】	Evidence-based Midwifery のレポート、プレゼンテーション、ディスカッション(20%) 文献クリティーク (1) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション(20%)				

	文献クリティーク (2) レポート、プレゼンテーション、ディスカッション(20%) 研究課題に関する文献レビュー、プレゼンテーション(40%)		
【フィードバックの方法】	内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	・Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 11th (2020) / D.F.Polit & C.T.Beck / Wolters Kluwer / ISBN:1975110641 他は、授業中に適宜紹介する。		
【参考書】	・BURNS AND GROVE'S The Practice of Nursing Research-Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 9th (2021). / J.R.Gray & S.K.Grove / Elsevier / ISBN:0323673171 その他、適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	がん看護理論特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Oncology Nursing
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	山田 紋子		
【担当教員】	山田 紋子		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	<p>がん患者とその家族への看護支援を前提におき、学生の関心のあるテーマを踏まえ、科学的エビデンスに基づいた看護実践を行うために必要な看護学および関連学問領域の諸理論・概念を学ぶ。さらに、そうした看護実践に向けた、科学的エビデンスの構築や理論開発の方法論を学ぶ。</p> <p>【キーワード】がん看護学、理論看護学、Evidence-based Practice</p>		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的エビデンスの構築と理論開発の方法が理解できる。 2. 関心のあるテーマに関連する諸理論、概念が理解できる。 3. 関心のあるテーマに関連する看護支援の問題と今後の課題が説明できる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：オリエンテーション(山田)</p> <p>第 2 回：がん看護学および関連学問領域の諸理論・モデル・概念① 病みの軌跡理論, 病気の不確かさ理論(山田)</p> <p>第 3 回：がん看護学および関連学問領域の諸理論・モデル・概念② コンフォート理論(Confort Theory)(山田)</p> <p>第 4 回：がん看護学および関連学問領域の諸理論・モデル・概念③ 移行理論(Transitionas Theory)(山田)</p> <p>第 5 回：がん看護学および関連学問領域の諸理論・モデル・概念④ 意思決定理論, 意思決定支援モデル(山田)</p> <p>第 6 回：がん看護学および関連学問領域の諸理論・モデル・概念⑤ The Model of Symptom Management (MSM), The Integrated Approach to Symptom Management(IASM)(山田)</p> <p>第 7 回：理論開発の方法論①：概念分析(山田)</p> <p>第 8 回：理論開発の方法論②：理論分析(山田)</p> <p>第 9 回：理論開発の方法論③：理論構築(山田)</p> <p>第 10 回：科学的エビデンスの構築の方法①：メタ統合(山田)</p> <p>第 11 回：科学的エビデンスの構築の方法②：メタ分析(山田)</p> <p>第 12 回：科学的エビデンスの構築の方法③：システムティックレビュー(山田)</p> <p>第 13 回：関心のあるテーマに関連する看護支援の問題と今後の課題に関する検討①(山田)</p> <p>第 14 回：関心のあるテーマに関連する看護支援の問題と今後の課題に関する検討②(山田)</p> <p>第 15 回：関心のあるテーマに関連する看護支援の問題と今後の課題に関する検討③(山田)</p>		
【事前・事後課題】	<p>主体的に授業に参画し、専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。</p> <p>その他の授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。</p>		
【準備学習時間】	自分の能力に応じて、各自で設定する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講		
【評価方法】	課題レポート 40%、プレゼンテーション内容 40%、討議(参加への積極性、発言内容)20%		

【フィードバックの方法】	メールまた授業時に質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	The Practice of Nursing Research 9 th / Elsevier / Gray, J.R. et al / ISBN: 978-0323673171 Nursing Research Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice 11 th / Wolters Kluwer / Polit, D.F. & Beck, C.T. / ISBN: 978-1-975110-64-2. 他は、授業中に適宜紹介する。		
【参考書】	Strategies for Theory Construction in Nursing 6 th / Pearson / Walker, L.O. & Avant, K.C. / ISBN: 978-0134754079 Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications, 2 th / Saunders / Rodgers, B.L. & Knafl, K.A. / ISBN: 978-0721682433 その他、適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※授業で取り上げる理論・モデル・概念は、学生の関心がある現象に従い、変更することがある。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	周手術期看護学特講	科目英語名	Doctoral Seminar in Perioperative Nursing		
【開講時期】	2026 年前期	【必選区分】	□必修 □選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	☑講義 □演習 □実習		【授業時間数】	30 時間	
【科目責任者】	林みよ子				
【担当教員】	林みよ子、山田紋子				
【DP との関連】	☑DP1 □DP2 □DP3 ☑DP4				
【授業概要】	周手術期看護学に関する理論と看護実践を追究する。周手術期看護学分野における理論や最近の研究動向を概観し、研究デザインと専門的知識を修得することにより、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。 【キーワード】 周手術期看護、Evidence-based Nursing Practice、看護理論				
【授業目標】	1. 国内外の周手術期看護の研究動向と課題が説明できる。 2. 関心あるテーマに関連する諸理論・諸概念が理解できる。 3. 周手術期にある患者への看護実践のエビデンスを見出す方法を説明できる。				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 ☑A ディスカッション／ディバード □B グループワーク ☑C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：周手術期看護学および関連学問領域の理論・モデル・概念①(林) ストレス・コーピング理論、危機理論、</p> <p>第 2 回：周手術期看護学および関連学問領域の理論・モデル・概念②(山田) 自己概念、ボディイメージ、意思決定</p> <p>第 3 回：周手術期看護学および関連学問領域の理論・モデル・概念③(林) コンフォート理論、家族理論</p> <p>第 4 回・第 5 回：理論開発の方法論(概念分析・理論分析(林))</p> <p>第 6 回・第 7 回：科学的エビデンスの構築方法(メタ分析・メタ統合)(林)</p> <p>第 8 回・第 9 回：周手術期看護に関する研究の動向(林・山田)</p> <p>第 10 回：周手術期看護に関する論文クリティーク①質的研究(林)</p> <p>第 11 回：周手術期看護に関する論文クリティーク②量的研究(山田)</p> <p>第 12 回：周手術期看護に関する文献クリティーク③介入研究(林・山田)</p> <p>第 13～15 回：関心あるテーマに関連する看護実践の問題と課題の検討(林・山田)</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習				
【評価方法】	プレゼンテーション(40%)、課題レポート(40%)、討議(20%)から総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	適宜質問に回答する。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。				
【テキスト】	Essentials of Perioperative Nursing 6th / Jones & Bartlett Learning / Goodman, T. Spry, C. / ISBN : 9781284079821 Theoretical Nursing 6 th edition(2018) / Meleis A.I. / Wolters Kluwer / ISBN: 978-0-06-000042-4				
【参考書】	Concept development in nursing: Foundation, Techniques, and Applications. Rodgers B.L. / Saunders / 978-0721682433. その他、適宜、授業内で紹介する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	精神保健看護学特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Psychiatric and Mental Health Nursing		
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		【授業時間数】	30 時間	
【科目責任者】	篁宗一				
【担当教員】	篁宗一				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	精神看護学の応用理論を学び、最新の精神看護・保健学の論文を幅広く読みとく。そして最新の精神看護学の知見についての現状と課題を明らかにする。その過程を踏まえて現在の精神看護実践の評価の視点を養い、今後の支援方法について検討する。 【キーワード】メンタルヘルス、リカバリー、偏見、予防				
【授業目標】	1.精神保健に関する様々な現状について、国内外の論文を読み解くことを通じて、様々な現場で起こっている事実を説明できる。 2.医療機関から地域に至るまでの精神障害者が直面している現状と課題や有効な支援の方法について説明できる。 3.精神保健上の現状と課題から、今後の対策に連なる支援やケアなどの手法を知り、新たな方法を提案できる。				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面授業とする。ただし、希望者はオンライン双方向による受講も可能である。</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 第 1 回:オリエンテーションと精神保健福祉の歴史 第 2 回:国内における精神保健上の問題についての現状 第 3 回:国内における精神保健上の対策についての現状 第 4 回:諸外国における精神保健上の問題についての現状 第 5 回:諸外国における精神保健上の対策についての現状 第 6 回:精神障害に対する有効な予防対策の現状 第 7 回:地域での支援に関するテーマ:訪問看護 第 8 回:地域での支援に関するテーマ:行政や家族会の支援 第 9 回:医療機関内で展開する精神看護のスキル 第 10 回:学校現場などで展開する予防的介入モデル 第 11 回:精神看護で用いる理論や概念のモデル:ストレス、危機理論 第 12 回:精神看護で用いる理論や概念のモデル:リカバリーモデル、ストレングスモデル 第 13 回:精神障害者の家族支援や地域移行支援などの実践的応用 第 14 回:産業現場でのメンタルヘルス対策 第 15 回:まとめ:今後の精神保健対策への提案</p>				
【事前・事後課題】	主体的に授業に参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前準備と事後学習を行う。 授業毎の課題は各授業回にて指示する。				
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学研究特講				
【評価方法】	プレゼンテーション 30%、レポート 50%、討議 20%				
【フィードバックの方法】	授業中の質問は時間内に返答する。その他の質問は内容に応じて次回の授業回、または別途返答する。				

【テキスト】	精神看護学 I [第 6 版]—精神保健学—／吉松 和哉、小泉 典章、川野 雅資 編集／ヌーヴェルヒロカワ／ISBN:978-4-86174-064-0		
【参考書】	プロセス・コンサルテーション援助関係を築くこと／E.H.シャイン、稲葉 元吉(訳)、尾川 丈一(訳)／白桃書房／ISBN:978-4561131403		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	地域・在宅看護システム特講	【科目英語名】	Doctoral Seminar in Community-based Integrated Care System		
【開講時期】	2026 年度前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		【授業時間数】	30 時間	
【科目責任者】	富安眞理				
【担当教員】	富安眞理				
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	地域の集団特性に伴う健康回復・維持・増進のために、地域の健康状態把握、資源調査・開発、看護援助方法及び地域包括ケアシステム整備について探究する。また個人・家族及び集団の健康指標、QOL 指標に関する質的・量的評価、顕在・潜在の健康問題把握と、健康問題解決のための研究に取り組む。 【キーワード】 地域・在宅看護、看護システム				
【授業目標】	1. 地域の健康状態把握、資源調査・開発、看護援助方法、地域包括ケアシステム整備について修得できる。 2. 地域で生活する人々の健康問題の把握、評価方法、問題解決策について修得できる。 3. 地域・在宅看護に関する研究の動向を検討することができる。				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第 1 回：地域看護の概念、活用する理論及び法律体系（富安） 第 2 回：在宅看護の概念、活用する理論及び法律体系（富安） 第 3 回：地域包括ケアの概念、活用する理論及び法律体系（富安） 第 4 回：療養生活支援に関連する概念・理論①臨床判断モデル（富安） 第 5 回：療養生活支援に関連する概念・理論②希望実現モデル（富安） 第 6 回：療養生活支援に関連する概念・理論③家族システム理論（富安） 第 7 回：地域の健康状態把握方法とアセスメント法（富安） 第 8 回：地域の健康問題解決法・資源開発と評価（富安） 第 9 回：地域の健康問題解決法・資源開発と評価（富安） 第 10 回：地域包括ケアシステムにおける在宅ケアサービス（富安） 第 11 回：地域・在宅看護に関する研究動向（富安） 第 12 回：地域・在宅看護に関する研究動向（富安） 第 13 回：在宅移行支援に関する研究動向（富安） 第 14 回：療養生活支援に関する研究動向（富安） 第 15 回：まとめ（富安）</p>				
【事前・事後課題】	主体的に講義・プレゼンテーションに参画し、研究能力と専門性を修得できるよう事前・事後学習に取り組む。各クラスの学習課題は、各クラスにて指示する。				
【準備学習時間】	各クラスにて指示する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、各看護学特別研究				
【評価方法】	討議 40%、プレゼンテーション 40%、課題レポート 20%から総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降のクラス、または別途返答する。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第 3 版／Polit,D.F., &Beck,C.T/坂下玲子(監訳)／医学書院／ISBN:978-4-260-05706-6 バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 9 版／Grove,S.K., Burns,N., & Gray,J.R./黒田裕子他(監訳)／エルゼビアジャパン／ISBN:9784860347949.				
【参考書】	その他、適宜提示する。				
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可		

【科目名】	国際看護学・看護管理学特講		【科目英語名】	Doctoral Seminar in Global Health Nursing & Nursing Leadership	
【開講時期】	2026年 前期	【必選区分】	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	竹熊カツマタ麻子				
【DPとの関連】	<input type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4				
【授業概要】	<p>国際看護学における実践、研究に関する現状についての理解を深める。「すべての人に健康を」とのビジョンの下に提唱された World Health Organization(WHO)の Primary Health Care 等の国際保健の実践モデルについて学ぶとともに、グローバルヘルスにおける研究の役割を考察し研究手法について学ぶ。</p> <p>看護管理学の領域におけるケアの安全、ケアの質の向上、医療における問題の解決など因るために必要な方法論、変革理論、リーダーシップ理論、看護管理に関係する研究方法、プロジェクトマネジメントについて学ぶ。具体的な内容については履修者の専門性を考慮する。</p> <p>【キーワード】 プライマリーヘルスケア (PHC)、グローバルヘルス(国際保健)、 World Health Organization (WHO)、 グローバルヘルスリサーチ、リーダーシップ、 Safety and Quality of Health Care</p>				
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護学・看護管理学の領域における実践、研究、教育に関する現状、トレンド、課題についての理解を深め説明できる。 2. 履修者の研究テーマに沿って、研究のプロセス、方法論、理論、モデル等について知識を深め説明ができる。 3. 履修者の研究テーマに関連する概念を定義することができるように、概念分析について説明できる。 4. 履修者の研究テーマに関連する実践と理論の活用について説明できる。 				
【授業展開】	<p>【授業方法】 対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>【アクティブラーニングを促す方法】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション/ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習/フィールドワーク</p> <p>【授業内容】</p> <p>第1回： 授業ガイダンス、国際看護・国際保健(グローバルヘルス) 総論</p> <p>第2回： 授業ガイダンス、看護管理・Nursing Leadership 総論</p> <p>第3回： 先行研究を読み解く</p> <p>第4回： 研究の問について</p> <p>第5回： 研究の問いから考える研究の哲学的な背景</p> <p>第6回： 研究の問いと研究デザインについて</p> <p>第7回： 研究課題に関係する理論やモデルについて</p> <p>第8回： 研究課題に関係する理論やモデルについて (2)</p> <p>第9回： 理論やモデルの検証について</p> <p>第10回： 概念の定義と概念分析について</p> <p>第11回： 研究デザイン / サンプリング</p> <p>第12回： 分析と分析における視点</p> <p>第13回： 研究事例検討</p> <p>第14回： 研究事例検討</p> <p>第15回： まとめ 最終プレゼンテーション</p>				
【事前・事後課題】	各授業回にて提示する。				
【準備学習時間】	各回の事前・事後課題に合わせて各自で設定する。				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	広域看護学特論 VI				
【評価方法】	プレゼンテーション (40%)、レポート(30%)、討議 (30%)				
【フィードバックの方法】	プレゼンテーション、ディスカッションについては授業当日にフィードバックを行う。レポートや課題については質問や相談をメールにて受け付け、メール、またはオンラインで返答をする。				
【テキスト】	看護研究 原理と方法 第3版/Polit, D. F. & Beck, C. T/坂下玲子(監訳)・坂下玲子・谷田恵子(訳) 医学書院/ISBN:978-4-260-05706-6 その他、適宜紹介する。				
【参考書】	看護理論の分析と評価/J. フォーセット 医学書院 ISBN-13 978-4260006347, 看護の重要コンセプト 20 看護分野における概念分析試み/J.R. Cutcliffe & H.P. McKenna Elsevier, ISBN-13				

	978-4860347277, 看護における概念開発: 基礎・方法・応用 Beth L. Rodgers (原著, 編集), Kathleen A. Knafl (原著, 編集), 近藤 麻理 (監修) 医学書院 ISBN-13 978-4260043472		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。 ※感染症拡大の影響により、オンライン双方向授業に変更する可能性がある。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	看護学特別演習	【科目英語名】	Doctoral Practicum in Nursing
【開講時期】	2026 年前期・後期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2単位
【授業形態】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	荒井孝子、篁宗一、竹熊カツマタ麻子、富安眞理、林みよ子、藤田景子、操華子、山下早苗、山田紋子		
【担当教員】	荒井孝子、鈴木千智、篁宗一、竹熊カツマタ麻子、富安眞理、林みよ子、藤田景子、操華子、山下早苗、山田紋子		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input type="checkbox"/> DP2 <input type="checkbox"/> DP3 <input type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	主とする領域に該当する演習を選択し、看護学特講での学修を基に、研究の遂行に必要な能力を高める。多様な看護の対象を踏まえ、文献クリティーク、フィールドワークなどの演習を通して、自己の研究課題を明確にする。 【キーワード】文献クリティーク、研究課題の明確化		
【授業目標】	1. 関心あるテーマに関する文献をクリティークすることができる。 2. 多様な看護の対象を踏まえて、自己の研究課題を検討できる。 3. 文献検討やフィールドワークなどからの学びを説明できる。 4. 文献検討やフィールドワークなどからの学びを基に、研究課題を明確にできる。		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 本科目では、各学生の指導教員がそれぞれに授業を展開する。 (荒井) 看護技術開発特講及び生体環境科学特講等の学修を活かして、特に社会環境医学の観点および健康阻害因子と予防との関連についてレビューし、自己の課題を明確にする。 (鈴木) 講義で既習した知識や学修を基に、行政保健師が保健活動を実践する上での課題、特に情報共有における意思決定時に生じる倫理的ジレンマなどに関するテーマについて文献を収集、批判的、系統的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。 (篁) 精神保健看護学特講の学修を基に、地域の作業所や精神科医療機関など精神看護実践を行う場所の見学や実践体験を行い支援法を学ぶとともに、看護職間や多職種間での連携を通じて精神看護の技術の習得を行うことで、医療機関から地域への移行の課題と展望について理解し、円滑な導入方法を具体化する。 (竹熊) 国際看護、国際保健、看護管理、看護倫理等の領域の学修を踏まえ、研究テーマについての系統的な文献レビューを行い、研究の問いを明確にする。 (富安) 地域・在宅看護システム特講の学修を基に、地域包括ケアおよび神経難病療養者とその家族への訪問看護支援に関するテーマについて、文献を包括的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。 (林) 周手術期看護学特講での学修を基に、周手術期看護に関するテーマについて、文献を系統的・批判的にレビューし、フィールドワーク等を行って、自己の研究課題を明確化する。 (藤田) 助産学特講での学修を基に、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)や周産期メンタルヘルス等のテーマについて、批判的・系統的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。 (操) 講義で既習した知識をもとに、感染管理・感染看護学領域における研究課題を探索し、その研究課題を探究する方法論について検討するための知識・技術を修得する。並行して、各自の研究課題を探究するのに適した方法論の検討を行う。</p>		

	<p>(山下) 小児看護実践開発特講での学修を基に、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援に関するテーマについて、文献的概観を明らかにし自己の研究課題を焦点化する。さらに、文献を批判的に吟味し研究手法を検討する。</p> <p>(山田) がん看護理論特講での学修を基に、学生が関心のある周手術期を中心とした乳がん看護に関するテーマについて、批判的、系統的にレビューし、フィールドワーク等を行うことにより、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>第1回～3回: 関心のあるテーマに関する文献クリティーク 第4回～6回: 関心のあるテーマに関する文献の統合(システムティックレビュー・メタ分析、メタ統合) 第7回～12回: 関心のあるテーマに関するフィールドワーク 第13回～15回: 研究課題の明確化</p>		
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別研究Ⅰ、看護学特別研究Ⅱ、看護学特別研究Ⅲ		
【評価方法】	プレゼンテーション(50%)、課題レポート(50%)などから、総合的に評価する。		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	<p>・Burns and Grove's 'The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 10th (2025) / J.R.Gray, S.K. Grove & D.J.Cipher / Elsevier / ISBN: 9780443115097</p> <p>・Polit & Beck's Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 12th (2024) / J.Flanagan & C.T.Beck / Wolters Kluwer / ISBN: 978975223816</p>		
【参考書】	担当教員より適宜紹介する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	看護学特別研究 I	【科目英語名】	Doctoral Dissertation Research I
【開講時期】	2026 年前期・後期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2単位
【授業形態】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	荒井孝子、篁宗一、竹熊カツマタ麻子、富安眞理、林みよ子、藤田景子、操華子、山下早苗、山田紋子		
【担当教員】	荒井孝子、鈴木千智、篁宗一、竹熊カツマタ麻子、富安眞理、林みよ子、藤田景子、操華子、山下早苗、山田紋子		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護学研究特講、看護学特講、看護学特別演習での学修を活用して、自己の研究課題に関する研究計画書を立案・作成する。 【キーワード】研究計画		
【授業目標】	1. 自己の研究課題において、研究を行う目的と意義が説明することができる。 2. 研究デザインに基づき、研究方法を立案できる。 3. 研究計画に伴う倫理的問題およびそれに対する配慮を説明することができる。 4. 第 1 回博士論文検討会において研究計画の審査を受け、合格することができる。		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 本科目では、各学生の指導教員がそれぞれに授業を展開する。</p> <p>(荒井) 看護技術開発特講及び生体環境科学特講等の学修を活かして、特に社会環境医学の観点および健康阻害因子と予防との関連に関する研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(鈴木) 看護学特別演習での学修を踏まえ、行政保健師が保健活動を実践する上での課題、特に情報共有における意思決定時に生じる倫理的ジレンマなどに関する研究計画と立案・作成する。</p> <p>(篁) 看護学研究特講、精神保健看護学特講、看護学特別演習での学修を活用して、思春期の地域の精神保健に関する早期予防についてテーマを明確にし、適切な研究方法を用いた研究計画を作成する。</p> <p>(竹熊) 国際看護、国際保健、看護管理、領域の学修を踏まえ、関心のある研究テーマについての系統的な文献レビューを行い、研究の問いを明確にする。研究の課題を設定し研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(富安) 地域・在宅看護システム特講、看護学特別演習での学修を活用して、地域包括ケアおよび神経難病療養者とその家族への訪問看護支援に関する研究課題の研究計画書を立案する。</p> <p>(林) 看護学研究特講、周手術期看護学特講、看護学特別演習での学修を活用して、周手術期看護に関する研究課題の研究計画書を立案する。</p> <p>(藤田) 看護学研究特講、助産学特講、看護学特別演習での学修を活用して、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)や周産期メンタルヘルス等に関する研究課題の研究計画書を立案・作成する。</p> <p>(操) 博士論文の研究計画、研究実施手順、研究倫理、フィールド調整、分析方法について理解を深め、感染管理・感染看護学領域に関する研究課題の研究計画立案、倫理審査申請書類作成に必要な諸手続きを修得する。</p> <p>(山下) 看護学研究特講、小児看護実践開発特講、看護学特別演習での学修を活用し、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援など小児看護実践の質向上および発展に寄与できる博士論文の研究計画書を作成する。</p> <p>(山田) 看護学研究特講、がん看護理論特講、看護学特別演習での学修を活用して、学生が関心のある周手術期を中心とした乳がん看護に関する研究課題に関する研究計画書を立案・作成する。</p>		

	<p>第1回～2回:研究目的・意義の明確化 第3回～4回:研究デザインの検討 第5回～6回:研究方法の検討 第7回～8回:サブストラクション(理論的基盤-研究デザイン-研究方法-分析モデルの一貫性の検討) 第9回～10回:研究計画書の作成 第11回～13回:第1回博士論文検討会の受審(準備を含む) 第14回～15回:研究倫理審査委員会の受審(準備を含む)</p>		
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。		
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。		
【履修条件】	なし		
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅱ、看護学特別研究Ⅲ		
【評価方法】	検討会でのプレゼンテーション(30%)、研究計画書の審査内容(70%)などから、総合的に評価する。 研究計画書の審査基準は、「静岡県立大学大学院看護学研究科博士学位審査に関する細則」を参照する。		
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。		
【テキスト】	<ul style="list-style-type: none"> ・Burns and Grove's 'The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 10th (2025) / J.R.Gray, S.K. Grove & D.J.Cipher / Elsevier / ISBN:9780443115097 ・Polit & Beck's Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 12th (2024) / J.Flanagan & C.T.Beck / Wolters Kluwer / ISBN:978975223816 		
【参考書】	担当教員が適宜提示する。		
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。		
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可

【科目名】	看護学特別研究Ⅱ	【科目英語名】	Doctoral Dissertation Research Ⅱ
【開講時期】	2026 年前期・後期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	2単位
【授業形態】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	荒井孝子、篁宗一、竹熊カツマタ麻子、富安眞理、林みよ子、藤田景子、操華子、山下早苗、山田紋子		
【担当教員】	荒井孝子、鈴木千智、篁宗一、竹熊カツマタ麻子、富安眞理、林みよ子、藤田景子、操華子、山下早苗、山田紋子		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護学特別研究Ⅰを踏まえ、自己の研究計画に沿ってデータ収集、データ分析等の研究活動を遂行する。 【キーワード】研究計画、データ収集、データ分析		
【授業目標】	1. 自己の研究計画に沿って、自律的にデータ収集、データ分析を行うことができる。 2. 第 2 回博士論文検討会にて、研究過程の中間発表を行うことができる。 3. これまでの研究成果を学外で発表することができる。		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディベート <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 本科目では、各学生の指導教員がそれぞれに授業を展開する。</p> <p>(荒井) 看護学特別研究Ⅰの学修を活かして、特に社会環境医学の観点及び健康阻害因子と予防との関連に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(鈴木) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、行政保健師が保健活動を実践する上での課題、特に情報共有における意思決定時に生じる倫理的ジレンマなどに関する研究課題について、研究計画に沿って、計画を実施する。</p> <p>(篁) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、思春期の地域の精神保健の早期予防研究に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(竹熊) 国際看護、国際保健、看護管理領域の学修を踏まえ、選定した研究課題の研究計画書に沿って研究のプロセスを遂行する。</p> <p>(富安) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、地域包括ケアおよび神経難病療養者とその家族への訪問看護支援に関する研究課題に関する研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(林) 看護学特別研究Ⅰを踏まえて、周手術期看護に関する研究課題の研究計画書に沿って、研究活動を遂行する。</p> <p>(藤田) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)や周産期メンタルヘルス等に関する研究課題の研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p> <p>(操) 感染管理・感染看護領域における研究課題に関する研究計画書に沿ってデータ収集と分析を実施し、実施上の問題に適切に対処しながら研究プロセスを進める。</p> <p>(山下) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援など小児看護実践の質向上および発展に寄与できる博士論文の研究を、研究計画書に沿って遂行し、研究成果の一部を公表する。</p> <p>(山田) 看護学特別研究Ⅰを踏まえ、学生が関心のある周手術期を中心とした乳がん看護に関する研究課題についての研究計画書に沿って研究活動を遂行する。</p>		

	<p>第1回～2回:予備調査:データ収集</p> <p>第3回～4回:予備調査:データ分析</p> <p>第5回～6回:予備調査結果を踏まえた計画書の検討、副論文の執筆</p> <p>第7回～8回:本研究:データ収集</p> <p>第9回～10回:本研究:データ分析</p> <p>第11回～12回:本研究:分析結果の妥当性の検証</p> <p>第13回～15回:第2回博士論文検討会の受審(準備を含む)</p>	
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。	
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。	
【履修条件】	看護学研究特講、専門科目の特講(1科目)、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰの単位を取得していること。	
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ、看護学特別研究Ⅲ	
【評価方法】	データ収集・分析活動への取り組み状況(30%)、副論文の内容(30%)、検討会でのプレゼンテーション(40%)などから、総合的に評価する。	
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。	
【テキスト】	<ul style="list-style-type: none"> ・Burns and Grove's 'The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 10th (2025)/J.R.Gray, S.K. Grove & D.J.Cipher/Elsevier/ISBN:9780443115097 ・Polit & Beck's Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 12th (2024)/J.Flanagan & C.T.Beck /Wolters Kluwer/ISBN:978975223816 	
【参考書】	担当教員が適宜提示する。	
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。	
【社会人聴講生】	不可	
	【科目等履修生】	不可

【科目名】	看護学特別研究Ⅲ	【科目英語名】	Doctoral Dissertation Research Ⅲ
【開講時期】	2026 年前期・後期	【必選区分】	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
【授業形態】	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	【単位数】	4単位
【授業形態】		【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	荒井孝子、篁宗一、竹熊カツマタ麻子、富安眞理、林みよ子、藤田景子、操華子、山下早苗、山田紋子		
【担当教員】	荒井孝子、鈴木千智、篁宗一、竹熊カツマタ麻子、富安眞理、林みよ子、藤田景子、操華子、山下早苗、山田紋子		
【DP との関連】	<input checked="" type="checkbox"/> DP1 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 <input checked="" type="checkbox"/> DP4		
【授業概要】	看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、自己の研究計画に沿って、研究目的、研究デザイン、研究方法、結果、考察、結論の一貫性を担保した博士論文を完成させる。 【キーワード】論文作成		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題、研究目的、研究デザイン、研究方法、結果、考察、結論に一貫性がある論文を執筆することができる。 2. 博士論文審査基準を満たす論文を執筆することができる。 3. 博士論文予備審査会を受審することができる。 4. 博士論文審査会を受審することができる。 5. 研究成果を公開することができる。 		
【授業展開】	<p>【授業方法】対面もしくはオンラインによるプレゼンテーション、ディスカッション 【アクティブラーニングを促す方法】 <input checked="" type="checkbox"/>A ディスカッション／ディバード <input type="checkbox"/>B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>C プレゼンテーション <input type="checkbox"/>D 実習／フィールドワーク</p> <p>【授業内容】 本科目では、各学生の指導教員がそれぞれに授業を展開する。</p> <p>(荒井) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱの学修を活かして、特に社会環境医学の観点および健康阻害因子と予防との関連に関する研究計画書に基づき、博士論文を完成させる。</p> <p>(鈴木) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、行政保健師が保健活動を実践する上での課題、特に情報共有における意思決定時に生じる倫理的ジレンマなどに関する研究課題の計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(篁) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、研究計画を進めることで精神看護実践の評価の視点を養い、思春期の地域の精神保健について早期予防を踏まえた今後の支援法を開発し博士論文を完成させる。</p> <p>(竹熊) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱの学修を活かして、国際看護、国際保健、看護管理領域の学修を踏まえ、選定した研究課題の研究計画に沿って研究のプロセスを遂行し、博士論文を完成させる。</p> <p>(富安) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、地域包括ケアおよび神経難病療養者とその家族への訪問看護支援に関する研究課題に関する研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(林) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえて、周手術期看護に関する研究課題の研究計画書に基づいて、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(藤田) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、学生が関心のあるドメスティック・バイオレンス(DV)や周産期メンタルヘルス等についての研究課題の計画書に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>(操) 感染管理・感染看護領域における研究課題に関する博士論文を完成し、学内発表・論文投稿の準備および学会での研究発表準備に必要な知識を深め、必要な手順を修得する。</p> <p>(山下) 看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、小児看護における倫理的課題や小児がんの子どもと家族を対象にした意思決定支援など小児看護実践の質向上及び発展に寄与できる博士論文を完成させる。</p>		

	<p>(山田)</p> <p>看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを踏まえ、学生の周手術期を中心とした乳がん看護に関する研究課題についての研究計画に沿って、一貫性を担保した博士論文を完成させる。</p> <p>第1回～3回:分析結果の解釈 第4回～6回:分析結果の統合 第7回～9回:研究論文の論旨の明確化 第10回～22回:論文の執筆 第23回～24回:予備審査の受審(準備を含む) 第25回～26回:論文の修正、完成 第27回～28回:本審査の受審(準備を含む) 第29回～30回:論文公開の準備</p>	
【事前・事後課題】	授業毎の個別課題は、各授業回にて指示する。	
【準備学習時間】	各授業回にて指示する。	
【履修条件】	看護学研究特講、専門科目の特講(1科目)、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱの単位を取得していること。	
【関連科目】	看護学研究特講、看護学特別演習、看護学特別研究Ⅰ、看護学特別研究Ⅱ	
【評価方法】	論文執筆への取り組み状況(30%)、審査会の審査内容(70%)などから、総合的に評価する。 審査会の審査基準は、「静岡県立大学大学院看護学研究科博士学位審査に関する細則」を参照する。	
【フィードバックの方法】	メールにて質問を受け付ける。内容に応じて次回以降の授業回、または別途返答する。	
【テキスト】	<ul style="list-style-type: none"> ・Burns and Grove's 'The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 10th (2025)/J.R.Gray, S.K. Grove & D.J.Cipher/Elsevier/ISBN:9780443115097 ・Polit & Beck's Nursing Research-Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, 12th (2024)/J.Flanagan & C.T.Beck /Wolters Kluwer/ISBN:978975223816 	
【参考書】	担当教員が適宜提示する。	
【備考】	※授業を受ける上で個別に配慮が必要な場合は、事前に科目責任者に相談してください。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可

関連規程

(趣旨)

第 1 条 静岡県立大学大学院看護学研究科（以下「研究科」という。）に関する事項については、静岡県立大学大学院学則（以下「学則」という。）及び静岡県立大学学位規程に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

- 2 保健師助産師看護師法（昭和 23 年法律第 203 号）及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則（昭和 26 年文部・厚生省令第 1 号）に係る事項については、この規程の定めるところによる。

(課程及び専攻)

第 2 条 研究科の課程は、博士課程とする。

- 2 博士課程は、これを前期 2 年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期 3 年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分する。
- 3 研究科に、看護学専攻を置く。
- 4 助産師養成選択科目は、助産師学校として文部科学大臣の指定を受けるものとする。
- 5 助産師養成選択科目を履修できる者は、保健師助産師看護師法第 21 条各号のいずれかに該当する者とする。

(教育方法)

第 3 条 博士前期課程の教育は、授業科目の授業及び修士論文等の作成に対する指導によって行うものとする。

- 2 博士後期課程の教育は、授業科目の授業、研究及び博士論文の作成に対する指導によって行うものとする。

(研究指導)

第 4 条 研究科において、教育研究上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、本研究科の学生が他大学の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

- 2 前項の規程により受けた研究指導は、研究科委員会において審査の上、研究科において受けた研究指導とみなすことができる。

(授業科目及び単位数)

第 5 条 授業科目及び単位数は、大学院学則の別表（一）看護学研究科（博士前期課程）及び大学院学則の別表（二）看護学研究科（博士後期課程）のとおりとする。

(助産師国家試験受験資格)

第 5 条の 2 助産師国家試験受験資格を得ようとする者は、大学院学則の別表（一）看護学研究科（博士前期課程）の定めるところに従って、第 12 条に規定する博士前期課程修了要件に加えて、所定の単位を修得しなければならない。

(単位の計算方法)

第 6 条 授業科目の単位数は、1 単位の履修時間を教室及び教室外を合せて 45 時間とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義は、15 時間をもって 1 単位とする。
- (2) 演習は、15 時間をもって 1 単位とする。
- (3) 実験又は実習は、30 時間をもって 1 単位とする。

- (4) 助産師養成選択科目のうち、演習は30時間（ただし、助産診断学演習Ⅰ及びⅡについては15時間）をもって1単位とし、実習は45時間（ただし、周産期助産学実習については30時間）をもって1単位とする。

（指導教員）

第7条 学生の履修及び研究等を指導するために、研究科長は研究科委員会の議に基づき、学生ごとに指導教員を定める。

- 2 博士前期課程においては、指導教員及び副指導教員は、研究科担当の教授及び准教授とする。ただし、必要があるときは、研究科委員会の議をもって認めることができる。
- 3 博士後期課程においては、指導教員及び副指導教員は、研究科担当の教授及び准教授の内、博士論文に関する研究指導を担える者とする。

（授業科目の履修）

第8条 学生は、授業科目の履修にあたっては、授業担当教員の承認を受けた上で、指定する期日までに所定の様式により申告しなければならない。

（単位修得の認定）

第9条 授業科目の単位修得の認定は、口答又は筆答の試験若しくは研究報告の審査により、授業担当教員が行う。

- 2 前項に規定する単位修得の認定は、各授業科目の授業の終了する学期末に行う。ただし、特別の事情があるときは、その期日を変更することができる。

（成績の評価）

第10条 授業科目の成績は、優、良、可及び不可の4段階に評価し、可以上を合格とする。

（単位修得の証明）

第11条 研究科長は、単位を修得した学生が願い出た場合には、単位修得証明書を交付するものとする。

（博士前期課程の修了要件）

第12条 博士前期課程の修了の要件は、在学期間中に大学院学則の別表(一)看護学研究科(博士前期課程)の定めるところに従って所定の単位以上取得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査及び試験に合格することとする。

- 2 前項の修士論文等の審査については、博士前期課程の目的に応じて適当と認めるときは、特定の研究課題についての研究成果を持って代えることができる。

（博士後期課程の修了要件）

第13条 博士後期課程の修了の要件は、博士後期課程に3年以上在籍し、在学期間中に大学院学則の別表(二)看護学研究科(博士後期課程)の定めるところに従って所定の単位以上取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。

- 2 前項に基づく認定以外、特例による博士の学位の認定は一切行わない。

（学位論文の提出）

第14条 博士前期課程及び博士後期課程の学位論文は、指導教員の承認を得て、研究科委員会の定める期日までに提出しなければならない。

（学位論文の審査及び最終試験）

第15条 学位論文の審査及び最終試験は、研究科委員会において選出された論文審査員が行う。

- 2 最終試験は、審査した学位論文を中心として、これに関連する授業科目及び外国語科目について

口答又は筆答により行う。

- 3 前二項において、必要に応じ審査員以外の学部教員の意見を求めることができる。
- 4 学位論文及び最終試験についての合格又は不合格の認定は、研究科委員会が論文審査員の報告に基づいて行う。

(学位の授与)

第16条 博士前期課程の修了者には、静岡県立大学学位規程の定めるところにより、修士(看護学)の学位を授与する。

- 2 博士後期課程の修了者には、静岡県立大学学位規程の定めるところにより、博士(看護学)の学位を授与する。

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、研究科に関し必要な事項は、研究科委員会が定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第5条の2並びに別表1及び2の規定は、平成24年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表1の規定は、平成28年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規定は、平成31年4月1日以降入学する者について適用する。

附 則

- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規程は、令和2年4月1日以降入学する者について適用し、同年3月31日において現に在学する者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条第2項、第3条第1項、第5条、第5条の2、第7条第2項、第12条第1項、及び第2項、第14条、第16条第1項の各規定は、令和2年4月1日以降に入学する者について適用し、同年3月31日において現在在学する者については、なお従前の例による。

静岡県立大学大学院看護学研究科博士学位審査に関する細則

(趣旨)

第1条 この細則は、静岡県立大学大学院学則、静岡県立大学学位規程及び静岡県立大学大学院看護学研究科規程に定めるもののほか、静岡県立大学大学院看護学研究科における博士学位審査に関し必要な事項を定める。

(研究指導教員)

第2条 博士後期課程の研究指導は、原則として指導教員1名と副指導教員1名の計2名で行う。

2 学生は、入学時に指導教員を、1年次前期までに副指導教員を検討し、看護学研究科長（以下、研究科長）に副指導教員を申請する（様式博第1号）。看護学研究科委員会（以下、研究科委員会という。）の議を経て決定し、変更は原則として認めない。指導教員・副指導教員の退職等やむをえない事情がある場合は、研究科委員会の議を経て指導教員及び副指導教員の変更ができる（様式博第2号）。

3 指導教員は、学生の研究計画立案より、データ収集の計画と実施、解析と分析、考察を含め論文完成に至るまで、研究全体に対して指導する。

4 副指導教員は、学生の研究計画立案、データ収集の計画と実施、解析と分析、考察に至るまで、副指導教員の研究領域の観点から、類似した領域または異なる領域の知見を踏まえて助言を与え、学生の研究の独自性と専門性を高めるとともに、新たな知見が近接または異なる研究領域にも参考となるように指導教員の指導を補助する。

(博士論文研究計画書の審査)

第3条 博士論文研究計画書（以下、研究計画書という。）の審査を申請する学生は、以下の書類を研究科長に提出する。

- | | |
|-----------------------|----|
| (1) 研究計画審査申請書（様式博第3号） | 1部 |
| (2) 研究計画書 | 6部 |

2 第1項の書類の提出期間は、1年次9月から翌2月末までとする。

3 提出された書類の差し替えは認められない。

4 研究科長は研究計画書の審査にあたり、第1項(1)、(2)以外の資料の提出を求めることができる。

(第1回博士論文検討会)

第4条 第1回博士論文検討会において研究計画書の審査を行う。

2 審査は、博士論文指導を担える教員又は必要に応じてその他の学識経験者が担当し、主査は指導教員とする。

3 指導教員は、研究科長に研究計画書審査委員を申請する（様式博第4号）。

4 研究科長は、研究科委員会の議を経て、研究計画書審査委員を指名する。

5 研究計画書の審査は速やかに行い、主査は博士論文研究計画審査結果報告書（様式博第5号）により研究科委員会において報告する。

6 研究計画書の審査基準については別に定める（別表）。

(研究計画書の合否判定)

第5条 研究科長は、研究科委員会で研究計画書の合否判定を行う。

2 研究科長は、合否判定結果を学生に速やかに通知する。

(博士論文研究計画書の研究倫理審査の受審)

第6条 学生は、合格の判定を受けた研究計画書について、静岡県立大学研究倫理審査委員会において研究倫理審査を受審する。

2 静岡県立大学研究倫理審査委員会の承認後に、データ収集を開始する。

(第2回博士論文検討会)

第7条 原則として2年次後期終了までに、第2回博士論文検討会を行い、研究の進捗状況に関する中間発表を行う。

2 博士論文指導を担当できる教員又は必要に応じてその他の学識経験者が参加し、助言を与える。

3 指導教員は、第2回博士論文検討会の実施内容を研究科長に報告する(様式博第6号)

(博士論文審査の申請資格)

第8条 博士論文審査を申請できる者は、必要な研究指導を受け、博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得又は修得見込みであり、入学前3年以内から申請時まで副論文として2名以上の査読制度のある国内外の学術誌に掲載された学術論文(採用決定通知段階でも可)1編以上を筆頭著者として有している者とする。

2 前項の資格の確認は、看護学研究科教務・カリキュラム委員会(以下、教務委員会という。)が行う。

(予備審査の申請)

第9条 博士論文審査を申請資格を有すると確認された者(以下、申請者という。)は、指導教員の承認を得て、期日までに研究科長に次の書類を提出し、予備審査を受けなければならない。

- | | |
|-------------------------|----|
| (1) 博士論文予備審査申請書(様式博第7号) | 4部 |
| (2) 副論文 1編以上 | 4部 |
| (3) 博士論文 | 4部 |
| (4) 博士論文の要旨 | 4部 |

2 提出された書類の差し替えは認めない。

3 提出期日は、10月上旬の当該年度当初に指定する日とする。

4 研究科長は、第1項(1)から(4)以外に審査に必要な資料の提出を求めることができる。

(予備審査会)

第10条 研究科長は、申請者より予備審査の申請があった時、これを研究科委員会において発議し承認の上、予備審査会を設置する。

2 予備審査会は、博士論文指導を担当できる教員又は必要に応じてその他の学識経験者によって構成され、主査1名、副査2名以上とする。ただし、審査される論文の指導教員及び副指導

教員は、主査になることはできない。

- 3 研究科長は、研究科委員会に審査員を申請する（様式博第8号）。
- 4 予備審査員は、研究科委員会の議を経て、研究科長が指名する。
- 5 予備審査の審査基準は、博士論文の審査基準（別表）に従う。
- 6 予備審査会は博士論文の予備審査を行い、主査は予備審査結果報告書（様式博第9号）をもって研究科長に報告する。

（予備審査の合否判定）

第11条 研究科委員会は、予備審査会からの報告を受けて予備審査の合否判定を行い、博士論文審査の申請の可否を決定する。

- 2 研究科長は、合否判定結果を学生に速やかに通知する。

（博士論文審査の申請）

第12条 前条の判定において、博士論文審査の申請が認められた申請者は、研究科委員会の定める期日までに、指導教員の承認を得て、研究科長に次の書類を提出する。

- (1) 博士論文審査申請書（様式博第10号） 4部
 - (2) 副論文 1編以上 4部
 - (3) 博士論文 4部
 - (4) 博士論文の要旨 4部
 - (5) 論文目録 4部
 - (6) 上記目録記載の論文別冊1編 4部（正本1部・副本3部）
 - (7) 履歴書 1部
 - (8) 成績証明書 1部
 - (9) 住民票記載事項証明書又はそれに代わるもの 1部
- 2 提出された博士論文等の差し替えは認めない。
 - 3 提出期限は、1月中旬の当該年度当初に指定する日とする。
 - 4 研究科長は、審査に必要な資料の提出を求めることができる。

（博士論文審査及び最終試験）

第13条 研究科長は、申請者より論文審査の申請があった時、これを研究科委員会において発議し承認の上、博士論文審査会を設置する。

- 2 博士論文審査会は、博士論文指導を担当できる教員又は必要に応じてその他の学識経験者によって構成され、これを論文審査員とする。
- 3 論文審査員は、主査1名、副査2名以上とする。ただし、審査される論文の指導教員及び副指導教員は、論文審査員になることはできない。
- 4 研究科長は、研究科委員会に博士論文審査会審査員を申請する（様式博第11号）。
- 5 論文審査員は、研究科委員会の議を経て、研究科長が指名する。
- 6 博士論文審査会は博士論文の審査と最終試験の審査を行う。
- 7 博士論文の審査基準については別に定める（別表）。
- 8 最終試験は、博士論文が前項の基準を満たしていることに加えて、修了後、独立した看護学

研究者としての能力を有しているか否かについて試問し、審査する。

9 主査は、博士論文審査結果報告書（様式博第 12 号）ならびに最終試験審査結果報告書（様式博第 13 号）を作成し、研究科長に提出する。

（博士論文及び最終試験の合否判定）

第 14 条 論文審査員は、研究科委員会で審査結果を報告する。研究科長は、研究科委員会で博士論文および最終試験の合否判定を行う。

2 研究科長は、合否判定結果を学生に速やかに通知する。

（学位授与の審議）

第 15 条 研究科委員会は、博士の学位の授与の可否を審議する（静岡県立大学学位規程第 10 条 1 項、静岡県立大学大学院看護学研究科規程第 16 条 2 項）。

2 研究科長は、審議結果を学長へ具申する。

（博士論文の公表）

第 16 条 博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から 3 ヶ月以内に、その学位論文の内容の要旨及び審査の結果の要旨を本学公式ウェブサイト上の機関リポジトリにて公表する。

2 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から 1 年以内に、当該博士論文に係る論文を学術誌等に投稿し受理されなければならない。ただし、既に受理されているときは、この限りではない。

附 則

この細則は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、令和 7 年 6 月 24 日から施行する。

別表

研究計画書の審査基準

1. 看護学における学術的意義、新規性、創造性等を有している。
2. 看護学における高度な専門性と深い学識に裏付けられている。
3. 研究計画書の構成・記述が十分かつ適切である。
4. 研究デザイン、データ収集方法、データ解析方法が妥当である。
5. 研究計画が実行可能かつ遂行できるものである。
6. 研究倫理について十分に理解し、それを遵守している。

博士論文の審査基準

1. 看護学における学術的意義、新規性、創造性等を有している。
2. 看護学における高度な専門性と深い学識に裏付けられている。
3. 論文の構成・記述が十分かつ適切である。
4. 得られた研究データや解析結果を正しく評価し、結論に至るまで一貫した議論がなされている。
5. 研究倫理について十分に理解し、それを遵守している。
6. 研究の限界、今後の発展について明確な展望が述べられている。
7. 博士論文に関連する論文が、国内外の査読付き学術雑誌に掲載または掲載決定され、学際的な評価に耐えうる水準に達している。

申請等書類

様式博第1号

看護学研究科博士後期課程副指導教員申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号

氏 名

(自署または押印)

博士後期課程における副指導教員を下記のとおり申請したいので、許可されるよう申請します。

記

副指導教員

指導教員(署名)

様式博第2号

看護学研究科博士後期課程研究指導教員変更申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号

氏 名

(自署または押印)

博士後期課程における研究指導教員を下記のとおり変更したいので、許可されるよう申請します。

記

変更前 研究指導教員
変更後 研究指導教員
変更理由

※変更前後の研究指導教員からの署名を受領の上で提出すること

変更前 研究指導教員(署名)

変更後 研究指導教員(署名)

様式博第3号

博士論文研究計画審査申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号
氏 名 (自署または押印)

指導教員 (自署または押印)

静岡県立大学大学院看護学研究科博士学位審査に関する細則第3条に基づき、
博士論文研究計画の審査を受けたいので申請します。

記

博士論文研究計画書 6部

様式博第4号

博士論文研究計画書審査員申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目 : _____

上記の研究題目の研究計画書審査について下記の者を審査員として申請します。

1. 主査 (指導教員)
2.
3.
4.
5.

指導教員(署名) _____

様式博第5号

博士論文研究計画審査結果報告書

年 月 日

学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

上記の研究計画を審査した結果、次のように判定しました。
(いずれかに○をしてください)

1. 合格

2. 不合格

その理由：

審査年月日 _____

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

様式博第6号

第2回博士論文検討会実施報告書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

第2回博士論文検討会において中間発表を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

学籍番号 学生氏名	
実施日時 実施場所	
参加者 参加人数	計*名
論文題目	
主たる 内 容	

指導教員(署名)

博士論文予備審査申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号
氏 名 印

指導教員 (自署または押印)

静岡県立大学大学院看護学研究科博士学位審査に関する細則第9条、第10条に基づき、博士論文予備審査を受けたいので申請します。

記

博士論文 4部 (正本1部・副本3部)
博士論文の要旨 4部 (正本1部・副本3部)
副論文1編以上 4部 (正本1部・副本3部)

..... 切 り 取 り 印

博士論文予備審査書類受領証

学生室にて、博士論文予備審査に関わる提出書類一式を受領したことを証明します。

学籍番号

氏 名

年 月 日



様式博第8号

博士論文予備審査審査員申請書

年 月 日

学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

上記の研究題目の予備審査について、下記の者を審査員として申請します。

1. 主査
2. 副査
3. 副査

静岡県立大学大学院看護学研究科長

氏名(署名) _____

様式博第9号

博士論文予備審査結果報告書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号 氏名

研究題目：

結 果 (いずれかに○をつける)

1. 合 格

2. 不合格

その理由：

審査年月日

主査(署名)

審査員(署名)

審査員(署名)

審査員(署名)

審査員(署名)

様式博第10号

博士論文審査申請書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号
氏 名 印

指導教員 (自署または押印)

静岡県立大学大学院学則 57 条に基づき、博士論文審査を受けたいので申請します。

記

博士論文	4部 (正本1部・副本3部)
博士論文の要旨	4部 (正本1部・副本3部)
副論文1編以上	4部 (正本1部・副本3部)
論文目録	4部 (正本1部・副本3部)
上記目録記載の論文別冊1編	4部 (正本1部・副本3部)
履歴書	1部
成績証明書	1部
住民票記載事項証明書又はそれに代わるもの	1部

..... 切り取り 印

博士論文審査書類受領証

学生室にて、博士論文審査に関わる提出書類一式を受領したことを証明します。

学籍番号
氏 名

年 月 日



様式博第 1 1 号

博士論文審査審査員申請書

学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目 : _____

上記の研究題目の博士論文審査について、下記の者を審査員として申請します。

1. 主査
2. 副査
3. 副査

静岡県立大学大学院看護学研究科長

氏名(署名) _____

様式博第12号

博士論文審査結果報告書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号 _____ 氏名 _____

研究題目： _____

結 果 (いずれかに○をつける)

1. 合 格

2. 不合格

その理由：

審査年月日 _____

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

様式博第13号

最終試験審査結果報告書

年 月 日

静岡県立大学大学院看護学研究科長 様

学籍番号 氏名

研究題目:

結果 (いずれかに○をつける)

1. 合格

2. 不合格

その理由:

審査年月日

主査(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

審査員(署名) _____

研究計画書および博士論文作成要領

研究計画書および博士論文作成要領

1. 書式

- ・原稿は A4 版用紙に横書きとし、1 ページ 40 字 × 30 行とする。
- ・フォントは 10.5 ポイント、余白は左右 30 mm、上部 30 mm、下部 35 mm とする。
- ・ページの下部、中央にページ数を打つ。
- ・片面印刷とする。

2. 表紙

- ・表紙は所定の様式で付する。【別紙】の表紙例を参照。

3. 目次

- ・本文の前に目次をつけ、論文のアウトラインを示す。

4. 本文の記載方法

- ・パラグラフの開始行は文頭を、1 文字下げ 2 文字目から記述する。
- ・原則として新かなづかいを用い、特別な用語以外はなるべく常用漢字を用いる。
- ・字体は、見出しおよび強調部分など特別な場合はゴシック体、外国語・数字には Times New Roman Bold を用いる。それ以外は明朝体または Times New Roman を用いる。
- ・句読点及びカッコは 1 文字分（全角）を使用し、改行した段落の行頭は、1 文字下げる。
- ・外来語はカタカナとし、外国人名および日本語として未定着の語は原語のまま記す。その際、単語は 2 行にまたがらないよう、ハイフンを使用せず後送りして改行する。
- ・学術誌名、学名、生物名などは斜字体（イタリック）を用いる。
- ・度量衡の単位表示は、各専門領域の慣例に従う。
- ・数字は特別な場合以外は算用数字を用い、1 マス 2 文字（半角）で処理する。また、数字は 2 行にまたがらないようにする。
- ・略語は、初出時に正式用語を示し、略語を [] に入れて付記すること。ただし、度量衡などの単位についてはその必要はない。略語を多数用いる場合には、最初もしくは付録に略語一覧を掲載する。

<記載例> Certified Nurse Specialist [CNS]

専門看護師 (Certified Nurse Specialist ; 以下 CNS)

5. 図、表及び写真の処理

- ・図、表、写真は、それぞれ種類ごとに通し番号と表題を付し、それを説明した本文近くの適当な場所に添付もしくは表示する。
- ・図、表、写真などが多く、本文に挿入すると煩雑になると考えられる場合には、

一括して本文のあとに付録としてつけてもよい。その際、目次にその付録の内容一覧を示す。

6. 論文の構成

- ・構成は、緒言、方法、結果、考察、結論、文献とする。
なお、内容から必要であれば、論文の構成を変更してもよい。
- ・方法や結果などで下位セクションが必要な場合は、例として以下に示す第2階層から第7階層までの6つの階層から構成する。

第2階層：I. II. III. 中央揃え

第3階層：A. B. C. 左端揃え

第4階層：1. 2. 3. 左端揃え

第5階層：a. b. c. 見出しのみ、本文左端より1文字下げる

第6階層：1) 2) 3) 上位の見出しより1文字下げる

第7階層：a) b) c) 上位の見出しより1文字下げる

7. 図、表の表題のつけ方

- ・図の表題：表題の頭に通し番号を付し、図の下に記す。
- ・表の表題：表題の頭に通し番号を記し、表の上に記す。
- ・罫線は横罫のみ使用する。横罫も最小限にとどめる。

8. 文献の記載について

- ・米国心理学会 American Psychological Association. (2020). *Publication manual of the American Psychological Association* (7th ed.). Washington, DC: Author. または International Committee of Medical Journal Editors. *Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals: Writing and Editing for Biomedical Publication*. <http://www.icmje.org/> に準拠する。

9. 注記について

- ・本文に注をつけるのは、以下の場合である。
 - ①本文中に論じられたテーマを補強したり、別の見方や情報、説明などを示したいが、本文に書き込むと論旨が混乱したり、ぼやけてしまったりする可能性がある場合。
 - ②引用の典拠や引用についての許諾などについてその場で示したい場合。
- ・脚注は文章の脇に*印もしくは肩数字を付け、そのページの下部、欄外にその内容を記す。同じページに複数の脚注がある場合には、順に*、**、***もしくは数字で順番を示す。
- ・図表の引用注は図や表に示されたデータに関する注は、*、†、‡, §, ||, ¶, **, ††, ‡‡ 順で記号を用い、図表のすぐ下に記載する。
- ・引用の場合、図表のすぐ下に出典を示し、文献リストにも含める。

1 0. 研究計画書の追加事項

- 研究計画書はファイルに綴じて提出する。

1 1. 博士論文の追加事項

- 博士論文はファイルに綴じて提出する。
- 表紙の後に要旨を添付し、ファイルに綴じる。
要旨は 3,600 字以内とする。
キーワードを 3～5 語、要旨の下段に記載し、五十音順に並べて記述する。
- 履歴書・成績証明書・住民票記載事項証明書又はそれに代わるものはクリアフォルダにまとめて博士論文とともに提出する（穴あけ不要）。
- 最終論文は 2 部、ファイルに綴じずに提出する（穴あけ不要）。

【別紙】博士論文表紙例

上下余白 4.5cm 左右余白 3cm

(西暦) 年度 博士論文

(明朝体 15～18 ポイント)

研究題目名

(15～18 ポイント)

看護学専攻 (10～11 ポイント)

学籍番号 (10～11 ポイント)

氏名 (15～18 ポイント)

*字体は明朝体または Times New Roman を用いる。

*本文中は、見出しおよび強調部分など特別な場合はゴシック体、外国語・数字には
Times New Roman Bold を用いる。

2026 年 3 月発行

この履修要項(シラバス)は修了時まで使用します。
修了後も必要となる場合がありますが、再発行はできません。各自で大切に保管ください。